付合小鏡

伊地知文庫
文庫20
227

文庫20
227

付合小鏡

正月 一十一 二月 十二 三月 十九 四月 廿五
五月 二十九 六月 三十六 七月 四十二 八月 五十四
九月 五十九 十月 六十六 十一月 七十二 十二月 七十六
悉 七十九 休懷 九十六 歎發 百三 神祇 百六
旅 百十 山類 百十五 水辺 百十九 居所 百三十一
植物 百卅九 生類 百四十九 雜 百五十八

伊地知氏書冊

○正月之詞

一 春立 二 星ヒ唱 三 茉子 四 胶赤熱 五 氷樣
六 若水 七 試ル手 八 子日 九 白馬 十 ワカナ菜
十一 芹 十二 梅 十三 縣召 十四 霞 十五 賭
十六 殘雪 十七 餘 十八 鶯 十九 霜 二十 作保姫
廿一 鳴鳥 二十二 野邊下萠 二十三 長閑 二十四 氷解
二十五 ワカナ 廿六 東風 二十七 春雨 二十八 朝鷹 廿九 雉子
三十 春月 三十一 角 くじ芦

○二月之詞

二十二 柳 三十三 木の芽 三十四 草の芽 三十五 畑焼 三十六 東菜

三十七 春駒 三十八 かへす田 三十九 春日祭 四十 大原祭 四十一 佛の別

四十二 帰 四十三 燕 四十四 胡蝶 四十五 松の芽みり

四十六 梨花 四十七 花 四十八 桜

○三月

四十九 桃 五十 曲の薬 已の日の猿 五十一 永日 五十二 上南祭

五十三 蛙 五十四 の鮎 五十五 苗代 五十六 蕨 五十七 薑

五十八 鳥帰 五十九 雲雀 六十 春鶯 六十一 [illegible] 六十二 藤

六十三 歎冬 六十四 暮春

○四月

一 更衣 二 卯花 三 杜の 四 牡丹 五 子規

六 新樹 七 神祭 八 葵 九 夏草

○五月

十 菖蒲 十一 茉玉 十二 [illegible] 十三 の竹 十四 五月雨

十五 桜麻 十六 わらさる 十七 早苗 十八 麦 十九 樗

二十 橘 二十一 鮎 廿二 橋舟 二十三 百合 廿四 海松

二十五 真菰 廿六 康子 二十七 ひこし 廿八 ゑ鶏 廿九 蚤

三十 蚊 廿一 蟬 廿二 短夜 廿三 夏月

○六月

三十四 氷室 廿五 夕貝 廿六 梅子 廿七 蓮 廿八 瓜

三十九 白雨 四十 八薫 四十一 雲瓜 四十二 扇 四十三 清水

四十五 暑日 四十六 納涼 四十七 秋近 四十八 八夜

○七月

一 立秋 二 蜩 三 七夕 四 残暑 五 [illegible]

六 [illegible] 七 楸 八 桐 九 柳 十 扇 [illegible]

十一 玉案 十二 露 十三 [illegible] 十四 月 十五 [illegible]

十六 萩 十七 薄 付尾花 十八 萩 十九 女郎花 廿 萱

二十一 花 廿二 朝飯 二十三 稲妻 廿四 早田 廿五 虫 松虫 鈴虫

二十六 庚 二十七 小[illegible]

○八月

二十八 稲葉 廿九 思草 卅 忍草 卅一 芭蕉 卅二 司召

三十二 放生 四十四 駒迹 四十五 初温 四十六 初光 四十七 野分
四十八 厂 四十九 鶉 四十 [illegible] 四十一 鴫 四十二 百舌
四十三 長夜 四十四 崩簗 四十五 渋鮎
○九月
四十六 蛬 四十七 石拂 四十八 菊 四十九 夜を 五十 冷し
五十一 蔦 五十二 石菓 五十三 炊酒 五十四 露霜 五十五 [illegible]
五十六 正木葉 五十七 柳 五十八 [illegible] 五十九 椎
六十 栗 六十一 [illegible] 六十二 [illegible] 六十三 [illegible]

○十月
一 [illegible] 二 [illegible] 三 木葉 四 冬の菊 十一 枯[illegible]
六 千鳥 七 [illegible] 付 [illegible] 八 鴨 九 木枯
十 炭竈 十一 網代 十二 [illegible] 十三 [illegible]月
○十一月
十四 氷 十五 紫漬 十六 [illegible] 十七 [illegible] 十八 [illegible]
十九 小宗 二十 [illegible] 二十一 [illegible]
○十二月

二十二 神樂 付燎 うたむ物 二十三 埋火 廿四 冬梅
廿五 年内立春 二十六 佛名 二十七 荷前 廿八 追儺 廿九 年山暮

○戀部

一 恋 二 思ひ 三 遇 四 待 五 恨
六 契 七 あさし契 八 こゝきは逢 九 れむ 十 別
十一 恋人 十二 雖面 十三 文 十四 使 十五 立名
十六 洞 十七 夢 十八 いとけるき中 十九 宵まて
二十 うるあ 廿一 妹かり 二十二 やもめ 廿三 新枕 廿四 古き人

廿五 色好 廿六 袖へたれつゝ 廿七 垣ろ尺 廿八 俳
廿九 占方 三十 物の事 卅一 うしろめたき 卅二 近増
卅三 近貧 卅四 ありけの情 三十五 さうしら 三十六 さかり
三十七 おぶなり 卅八 偽 卅九 行 四十 暮の殘 四十一 ぶくる心
四十二 ふりさるゝ 四十三 忘らるゝ 四十四 通路 四十五 なゐめく 四十六 身をあさ
四十七 めくらんを 四十八 語りなる 四十九 款さくる中 五十 ぬきさぬ
五十一 ぶきすくを 五十二 尺袖 五十三 下人 第

○述懷

一世と捨る二むりし　三老付齢四　但家五　毎衣
六墨染の袖　七藤衣八　無人九死する命
十古塚十一草の原十二木の本の雫十三ちりぬる命
十四親十五なの親十六子と云ふ十七怪りり

○釋教

十八寺十九室二十法二十一行二十二悟
十三闕伽汲廿四甚暁廿五衣の玉廿六佛二十七一ま金竜
十八なの世代おとゝ人

○神祇

一神二文三祇四瑞籬五白申
自ゆき六注連七祝子九かりし

○旅之部

十旅十一都とおとゝ人十二食とり十三関
十四船十五駒十六驛路十七しり花十八越る山路
十九四ほと分ル二十有ほとりへつまる

○山類

一 山 二 峯 三 岡 四 谷 五 麓
六 坂 七 畑 八 杉 九 杣

○水辺

十 瀧 十一 浦 付海沖 十二 濱 付鳴浮 洲 濰
十三 礒 十四 江 十五 湊 十六 汐 十七 浪
付みぞ 十八 海士 十九 川 付渕 沈 二十 池
二十一 澤 二十二 沼 二十三 井 二十四 堤 二十五 岸
二十六 檣 二十七 樋 二十八 筏 二十九 井岡

○居所

三十 殿 三十一 樓 三十二 宿 付家 三十三 屋 三十四 芦屋
三十五 菴 三十六 軒 三十七 戸 付扉 四十八 門 四十九 窓
四十 床 付ゆり 四十一 里 四十二 洹 四十三 簾
四十四 庭 付砌 四十五 外面

○植物

一 松 二 杉 三 槙 四 檜原 五 檜柏
六 森 七 草 八 莓 九 芝 十 菅

十一 蘂 十二 芦 十三 蓬 十四 薄 十五 浅茅
十六 むら 十七 篠 十八 竹 十九 菽 二十 小田畔

○生類

二十一 鷺 二十二 鵠 二十三 鴉 二十四 鳩 二十五 鳩鳥
二十六 鴟 二十七 梟 二十八 鶏 廿九 雀 卅 神鳥
三十一 鼯 三十二 牛 三十三 猪 三十四 虎 卅五 鮭
三十六 狐 卅七 兎 卅八 猫 卅九 猿 四十 犬
四十一 獣 四十二 篠蟹 四十三 魚 付貝

○雜部

一日 付空天 二 星 三 朝 付明 四 夕 付舌 五 夜
六 雨 七 雲 八 烟 九 凡 付光 十 鳴神
十一 虹 十二 天彦 十三 鐘 十四 田 十五 野
十六 市 十七 岩 付石 十八 真砂 十九 柴 薪 二十 笠
二十一 簑 二十二 布 二十三 洗衣 廿四 麻衣 廿五 衣
付 花の袖 廿六 焼火 廿七 無火 廿八 灯 廿九 車
三十 鏡 三十一 繪 卅二 子習 付硯 卅三 屏風 卅四 髮

三十五 初餐（ハツモトヒ） 六六 例 あらぬ 六七 左迂（サスラヘ） 六八 碁
六九 鞠 四十 詩 四十一 哥 四十二 うゝ人 四十三 学
四十四 琴 四十五 笛 四十六 糸竹 四十七 舞 四十八 玉
四十九 錦 五十 仙人 五十一 りりの仗 五十二 唐
五十三 都 五十四 君 五十五 凡幸（ミユキ） 五十六 位 五十七 夫仕
五十八 宿直（トノヰ） 五十九 凡調（ミツキ） 六十 主儲（ヲモヒシヲ） 六十一 酒 付酔心
六十二 家の凡 六十三 宅の上 六十四 四町 六十五 賀 六十六 祝言（ヨルヅキ）

畢

正月 むつさ月 蒸 祝 月 日
かすこうめ月 ○ 親 光 むつさ月の勾 蹴
一 蒸 花の蒸 わらむの蒸 と 朔の蒸 初蒸
今見蒸 ゆらむの年 むかへ年 上年 しらく
年 さくく 冢の初 去年 蒸 占冢 日
○冢の初 初 初むし 年 試 連 星 唱
冢 長閑 落 宮消 少 祝
春 朔 年 朔 朔 人 奉
舌 天の 天上 天皇

[illegible]

二 一星と唱ふ 四方詠の事之 春立之 [illegible] 九重 [illegible] 後成

三 一[illegible] 屠蘇白散之 弘仁年二 [illegible]

○[illegible] 百歳の間 [illegible] 鹿の油 齡と延

四 一肢赤熱 鱒之 景行天皇御宇肥前宇上郡 長濱ニテ 此魚を釣テ [illegible]

○九重の雲 年の初 連ふ油

五 一沙のたゆし ○[illegible] 後ふ雲 [illegible]

六 一[illegible]水 [illegible]

○消し沙 [illegible] 池河

七 一[illegible] 吉書の事之 [illegible]

○四方の詠 初雲 [illegible] 都雲

歌など撰
よめるは根と兼て白きを元来の水辺に生るを定家
一上 芹 付せり 芹ノ異名モ又別ニ有之 沢の根芹
摘芹 小芹 深根芹 田の芹 沢の根芹
せり摘 せりの若菜 山さはせり 川せりも
○ 水消し 沾 澤芹 小田のわぜ 素流
言ともの水 さ流へと 異名白根草
歌 春日野の雪をの沢に袖ぬれて君かためにと小芹をそ摘 仲実
月 降雪のふる芹田の畔に摘芹と ... やはまね 仙

一十二 梅 梅か香 梅白し 梅を煮て 梅か香 梅薗 梅嫁
寝覚梅 梅ひと重 梅の毛 窓の梅 梅のむらさき
此ほとりの梅 庭の梅 折人の梅 谷の梅 浜松の梅
梅の下風 隣人の梅 初の梅 梅の下家 やぶの梅 摘
しるる 素の色 言消 賤の酒 窓の月 素の園
春風 笛の音 春の月 秋流 雁渡 くもの山
歌 梅の花あるくらんは雲の中ね白きに濃き ... 深人
同 しるのひる袖かへし ... 春月 ... や 通具

こすゑ　[illegible]　鐘の音　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]月　[illegible]

[illegible]　[illegible]　国信

[illegible]　伊勢

[illegible]　[illegible]

[illegible]　具親

[illegible]　[illegible]

一佐保姫　[illegible]　神　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]

○長閑成る　[illegible]月　花咲山　[illegible]　[illegible]

天[illegible]小　青根の嵩

[illegible]

一囀る鳥　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

○[illegible]色　日の[illegible]　[illegible]　[illegible]の里　[illegible]の曙

花の林　園の竹　[illegible]

末志賀乃浦　浪わらら嫁　田代等　河の
乃き居き　氷消田地　芦鎌　短
古　答風ふきくる水乃き面ことに打出る浪や春乃初む　まさ
詞　水のし志が乃し稀奇らけて乃浪よりすゝ春風ふれ　匡房
二十五　一　ふりめりむ　浦風ぬるむおもも春も
正月より三月
○芦の葉　春の蘇　鳴蟲　沈の乃朔日　ゝ孫
まゝ小田　あがらく氣　池乃氣　苗代のみより
二十六　一　春風　こち風　朔春風　春春風　春風

春風乃光　春春風　○春雨　柳くく　氣暖氣
浦舟　わつ往乃浪　春乃雪　池凍東頭風度解
泳　春風を乃雪と折く世人ゆゑや宮消かゝぬ石山ゑ　肥後乃里
松　春風ふ白ひおこをよ柳乃ひわくしなしそ春と見る所　菱氣
二十七　一　春雨　春乃雪　二雨ゝ春ゝ春雨　夜のめ春雨
夜春雨　そくく春雨　寒乃春雨　春乃春雨
雨氣　深生乃雨　○青柳　雪消ゝ　こてゝ
丹人乃緑　流れあ　咲花　鳴蟲　霧　氣庭

古柳　杉木柳　門の柳　茂氏柳 [illegible]

○長凡　東川の池の　岸根　堤　管の　流れの

庭の露　小田の苗代　長雨　清の　村鶯

花柳　蛍　納涼　葛城山　佐保川　流川

吉野川　鞠の庭　○柳上ニ鶯花ヲ　下々　琴

○離別　河辺ニ　館ヲ柳ニ條ヲ　○東岸西岸柳　遅速不同

古　流れの水よりかけて白露とむすぶもぬけるまの柳の露

古　道の人の清のなかるる柳りけるとてとそ立ち居り　一遍　両行

[illegible]　根の柳ハ庭の玉もとかり後[illegible]

[illegible]　[illegible]柳の[illegible]山の水き[illegible]　定家

但青柳ハ[illegible]

いむりけ[illegible]　可付

一二十三　末の[illegible]　末の[illegible]　[illegible]

[illegible]　長雨　[illegible]　長閑なる山森　柳

一二十四　[illegible]草　[illegible]

[illegible]　[illegible]　草[illegible]

○雉子の声　[illegible]　[illegible]　[illegible]

十三

花園ニ 忘賀 よしのゝ雪
[illegible]
心のむに 探とりうれ 来ゝ砂 [illegible]
古 [illegible]
一探 初探 八重探 [illegible]探 [illegible]探
[illegible]探 家探 岩木の探 [illegible]探
山探 探狩 尋常 探[illegible] 探鯛 探の鯛
探貝 日 探田 探の多き市 付合大かたは花 おもし

●探鯛ニ 春の海の静 [illegible]
又東 [illegible]の浦のさゝら鯛 [illegible]
[illegible]
[illegible]
三月 孫生 花乃月 [illegible]月 孫生 [illegible]
一桃 桃園 和句桃 [illegible]桃 八重桃花 三十本 [illegible]
○[illegible]閑成朝日 賤や [illegible]の行だ 山[illegible] 故郷
仙の宿 [illegible] 色 酸盃 牛 [illegible]

一蛙 井手の堰 まさて蛙 蛙のとろこと
岩なしさらす鳴蛙 石井の堰に住蛙 蓑呼蛙
○小田の川の口 苗代 池の口 古沼 井の川の 長雨
蒙 あさむ井の江 あさむ 歎を 淋しきす
玉川 神南 佐川
山吹の花咲にけり蛙なく井手の里人とやこゝはし基俊
あ宿にあむやしして鳴蛙 よりまゐれやおそ也 よく人
蛙なく井なむ川に流みてく今や生らん山ゆきなむ 王覺

一鮎 の鮎 の鮎つるの鮎 のなるやなるを
鮎築ハ名之 渓鮎 崩築ハ名之 ヨリ
○玉の川の 挂川 大井川 袈裟川 松浦川
宇治川 月の下の 山石の鮎のうすむ 長流の
松浦川 玉鶴の浦 さのゆつるいもとみらん人のこゝろ
一苗代 なりしの小田 かむ〻苗代 なら苗代
苗代なき 苗代の 賊の苗代
○玉の川の 沢へ 一ゆね 蛙 柳 玉函 朝家

長凡 村竹 根芹 流れ 流れ 流れ集

全 天河 [illegible]

五十六 一 蕨 初蕨 [illegible] 蕨打 [illegible] 蕨 蕨摘

○ 片山畑 和山 谷陰 世と捨人 長野 [illegible]

岩陰 山蔵 宇治山 紫塵嬾 蕨人 拳手

[illegible]

平七 一 莖 摘莖 [illegible] 莖 莖 莖 莖

○ 長の野 古法 妹ヶ陰根 芝草 [illegible]

[illegible] 浅茅原 [illegible]

坂 [illegible]

坂 [illegible]

五十八 一 鳥帰 [illegible] 長の [illegible] 春

[illegible] 人かよふ垣ね

五十九 一 [illegible]雀 [illegible]雀 [illegible]雀の床 [illegible]雀落来

[illegible]雀 [illegible]雀 [illegible]雀 [illegible]雀

子と母 [illegible]雀 ○ [illegible] 長凡 [illegible]

[illegible]の夕月 おくてか 芝之生

かくらめ[illegible]の[illegible]の[illegible]

一 春時 [illegible]雨[illegible] 孫生山 [illegible]の[illegible] [illegible]

朧月夜 [illegible]の[illegible]

六十一 一 [illegible] 岩根の[illegible] [illegible]

[illegible]の[illegible] [illegible] [illegible]

下[illegible] 白[illegible] [illegible]の[illegible] [illegible]

白[illegible] [illegible] 鄭[illegible]原[illegible]

[illegible]の[illegible] ○[illegible] [illegible]谷合 岩根

[illegible] 川岸 [illegible]田河 [illegible]の夕月 [illegible]

[illegible]の浦 [illegible]

古 [illegible]盤[illegible]

天本 [illegible]の八塩の岡の[illegible] [illegible]の袖 [illegible]

六十二 一 藤 [illegible] [illegible]の自[illegible] [illegible] 池の[illegible]浪

[illegible] [illegible] 岩垣藤 [illegible]

[illegible] [illegible]の[illegible] [illegible]の浦 [illegible]

[illegible]

三十五

一 二

卯花　卯花月夜　夜の卯花　垣ねの卯花

初卯花　卯花の香　卯花の雪　卯花くだし　雨

八重の卯花　山の卯花　卯花垣　わか卯花　卯花かくる　山

垣ねの卯花　卯花を流れ来　卯花川水

○河　友の月　山里　垣ねの垣ね　野川の里

小野の里　生垣　白河

みるまゝに波の柵かけてけり卯花さける野川の里

袖にふれ移りぬる白妙の卯花咲る垣ねをそみる　公実

月

この花咲垣ねは高根ちて見えわたりきみ月の空　河内

一 三

杜若　岩垣の杜若をしても手向にいまし夕　○沢の池　池沢

下津　むらさき　白鷺　八橋　浅沢沼　鴫る

来ぬ人をまつとて咲る杜若池の汀にたつむらさき　師

花の色はまつにも咲る杜若ぬれ衣かけてまし　業

鳴るかきつはた深沢の杜若人の袖をかへ　俊頼

月

今

さとの月やも沢の杜若いつれともなく咲けるは　郭季

一 四

牡丹　ふかみ草　ゆめ見草　名取草をちる　寛平法皇

○庭の蜜　色　夜月　胡蝶　猫

杜丹花下の騒猫ハ在心華蝶ニ

[illegible]

五

一子規　山子規　鳴蜀魂　鳴ハ附る　同郭公

夜ニ鳴杜宇　素ニ杜鵑　待ハ[illegible]

子規の思ひ　附る[illegible]　[illegible]

郭公の泪　[illegible]　子規の

[illegible]　附る[illegible]

○[illegible]　雨中　村雨　夜浪　花　枝村　短夜

森の[illegible]　葉　橘　[illegible]　草の庵　[illegible]

[illegible]　山路　[illegible]　青明　関の戸　二[illegible]

[illegible]　淀の渡　[illegible]　明石

[illegible]　[illegible]　後成

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

元友田
橘のまつ代る月しみ河るむちの里とふ行ねくこそ
卯のむつの瑞ねかゝそと河る月は橘のかをそ思へ之
一六
新樹 あさつの木 まつの名木 まつのみ緑
一あをかまうつゝのむ 立冬木立 木かげの人ハ何ぞ夜之
あき 氷 夜之 冬のあき木の葉の同 木の下やミ 木草
とき 先づ夜之 先づハ三月ニ渡へし
木々の実祭ハ○河る 秋の 夜山 夜月
あき計ニわかハ○菊 春草 おもくみれ詞

一御祭 大原祭 四月上卯日之 三輪明神 一稲荷祭 同上
一平野祭 同上申日之 仁徳天皇をいはひまつる之 一松尾祭 同上申日
一広瀬竜田祭 同四日之 一吉田祭 同中子日
一加茂祭 同中ノ酉日 也して神祭ハ賀茂祭之故ニ賀茂
付たる事なし 他ノ名所ハ加茂のみあれ同祭之おもむき
うき寸 賀茂の祭の日之 紬 とろハいつきにもおくへし
○里人の住来 添ぐく小車 乗人 成酒 かくる
白神 主日 大原 ○祭と計ニハ 七夕 小田の口
あききむ 見にいる風 恋ニおもき風を懐かしき心よく

池入あやめ ○折入下露 庭の橋 小家なるらむ
五月雨 と小河ゆ○あやめ間こわらハ 里人
志清のを 沢辺の道 淀のいさら
沢 乾宿入形の悪也 志きゝ風 上けりあやめもみなぬ人ハ 後来
古 河ゆ鳴やさつき入あやめくさあやめもしらぬ悪もすらハ よこ人金ゝ手
一 土 菜玉 クス タ 油入菜玉 匂ふ菜玉 枝ふ久家菜玉
○大三丸人 あやめ手 夜瓦 夕盃
一 土 心ゆるし入日 つゝ河家小車 油入ゆく

みし一紙 大三丸人
一 土 家の竹 家家入竹 今年生の竹 夜ゝ家竹
○五月雨 打入下雲 窓の蛍 色 夜の月
園生 下前
一 土 五月雨 みりまの比 とやまぬ五りまの 青ゆ
き五月雨 さみさる 雨さみされく 柳入雨
さ月の雨 ○ 白ゝ雨 家竹 蛍 樗 上手 菖蒲
月こぬ窓 下前 絶ぬり道の清来 橋のらる

子規　こもりて竜　富士乃雲　袖の涙　淋しきに
日数ふる旅の宿　あり越家川橋　家乃上げさ
五月雨にぬれしくむり今やめ家活の名垣浪もこそ　世　松波
玉浮乃ゑ月の一ふしも絵　ゑ程ふるさとこれの比　定家
五月雨に日も暮ぬめり　須ちまと山田のさなへれも　陸資
あつ和ゑいくとも　幾夜経麻川　八十流も立てぬ五月の比　後成
一採麻　刈干採　夜そ門　歴麻の葉　わさそ竹
○里へめくり　残り園　須ず　生乃浦

採麻乃生の浦沱立てみ里とも　あへて山なし九ぬ　後乾
一わらさゐ　ゆらき井乃ぬ　八十貫わらさゐ乃ぬ
何ぬらのわらさゐ　わらさゐ　夫木に　紫陽草　りける
し夜入月　庭の雨　蛍　よ　ぬらのぬ　トも
又　わらさゐの下葉にまつしを蛍とは空中乃殺のそ　ぬらとそ　ろ　定家
一平苗　平苗とろ　こゝ　平苗　なぬく平苗　何平苗
何平苗　ふしゝ　平苗　田草とろも　夜
○五月雨　蛍　附高　あ入流　前行　名風　胡露

古 五月 [illegible] 橋の [illegible] 貞人の袖 [illegible] 後人 [illegible]

二十一 一鮎 鮎 [illegible] 外鮎 [illegible] [illegible] [illegible] [illegible]

○ [illegible] 夜川 [illegible] 月流流 [illegible] 宇治川

大井川 桂川 松浦川 玉鴻川

二十二 朝 [illegible] 日 [illegible] 桂鮎 [illegible] [illegible] [illegible] 信實

[illegible] 川 [illegible] [illegible] [illegible] 鮎 [illegible] [illegible] 乃家 [illegible]

二十三 一鵜舟 [illegible] 舟 下寸舟 鵜舟 [illegible] 舟 [illegible] 鵜舟

[illegible] 鵜川 夜河 [illegible] 舟の [illegible] [illegible] [illegible] 鵜

[illegible] 鵜 [illegible] 君 [illegible] 居鵜 [illegible] 雜○ [illegible] [illegible]

[illegible] 川 [illegible] 大井川 桂川 宇治川

[illegible] 舟 [illegible] 武士 [illegible] 八十氏川 [illegible] [illegible] [illegible]

二十四 一百合草 [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible]

合草 [illegible] 百合草 [illegible] 百合草

[illegible] 蛍 [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible]

野 [illegible] 渓路 真野の入江 近江

[illegible] 家集 [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible]

十五 そゝ[illegible]の[illegible]に浪に守風の[illegible]日を後頼

一海松 海松刈 海松むろふ 海松布刈 [illegible]

みるふさ うき海松 ○ 磯人 漢傳む よる浪

滿汐 芦や 茂る芦 うきこ 亀の風 真砂地

伊勢海 雞波 大淀の浦

松遺貞が 此の[illegible]みるのよりくまこしわのや八里 定家

うき[illegible]付之字 海松[illegible]けり[illegible]

春日 [illegible]月[illegible]の月椿[illegible]

二十五 一真菰 [illegible]菰刈 真菰草 [illegible]菰茂る 真菰

みるふ 沢の真菰 沼の真菰 入江の真菰 菰刈

小舟 花[illegible] ○沼の 入江 舟 [illegible]月[illegible] [illegible]

あやめ草 芦辺 淀の渡 三島江 玉江 [illegible]

休 [illegible]の[illegible]

二十六 一鹿子 かのこたまむ 鹿子[illegible] 鹿子[illegible] 鹿子

刈 鹿子入野 鹿子[illegible] [illegible]の[illegible] 住野

○友山 友草 田中の道 [illegible] 罌人

[illegible]の袖　[illegible]　蛍火乱飛テ秋已ニ近シ

車のうち　難波　芦屋の浦　腐草化成蛍　月令

雅波江の[illegible]　[illegible]

[illegible]

[illegible]

一故を火　故を[illegible]　故を[illegible]　[illegible]

[illegible]　蚊の[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]

蚊の[illegible]　[illegible]　暑さ[illegible]　[illegible]

故[illegible]　[illegible]

一蟬　蟬の声　蟬の羽　[illegible]　蟬の[illegible]

蟬の[illegible]声　[illegible]蟬の涙　蟬[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　蟬の声[illegible]

[illegible]　[illegible]　蟬の[illegible]

一短夜　[illegible]　[illegible]夜

○子規の一こゑ　蚊の一こゑ　夜月　米あらふ夏
物の短冊　消つまさずく花　うき別
青 一夜もねらねよりねられぬ夜やねむれの森で夜は明るなり　鶏鳴
一三十三 一夏月　夏の夜の月　明やすき夜の月
○子規　うの花さかむ　晴か五月雨　新露草
夕立の後　夜々山　納涼　端居まはりまつ扇
五月 五月の雨かきくらしぬる夕立のそさらけぬくすゞ月の雨　[illegible]
六月　水無月　凡欲月　みな月　水無月

一三十四 一氷室　氷室守る　氷室山　氷室の守り　氷室の名　氷室の調　○　雨涼き夜　よくよ羅
夜山の奥　夕涼しき　松の露　嵐織
六月も涼しきこぼるゝ露の音よおくぬ袖や氷室の人　居
夏の月も涼しかりける雲の露これや氷室のつき人　撃
一三十五 一夕顔　夕顔の花　白き花　夕顔の宿　折ま流
つまさく　夕顔○　狭き路　みな花　折の下露
小家の軒　とし車を立るか　極こふ　夕顔の上の子を　めでしこころ

心あくまでもれとうみ白髮の女今へさうの歌の心
清月はしふこうしさう扇といふてクルかの心をとてく
まのしをけりさ扇よ手けりあと
わくこそそれともみめ居りれかの　みしむ歌
おけらす遠き人の袖　やみ清水は白きみかの心宴
三十六
一　撫子　付久良石の衍も　撫子の心　なてしこのうと
うら撫子　大和撫子　河原なてしこ　一ケ此なてしこ
ま世の撫子　園の撫子　垣の撫子　野へ の撫子
光ゆるを　かり撫子　形つ人の撫子　子ニよきり

庭の女　君ゆゑ　ちとゝ　君ゆゑ
○色の露　山藏の洹孫　夜雪　いくか　あつき日
妹ゆゑ　夕露　撫子ゆゑ　ゆゑ
君ゆゑ　朝のうしれ　ゆゑ　ゆゑ
いかなる人　ことゝ　ゆゑ　ゆゑ
うしかは　月けり　ゆゑ　ゆゑ　ゆゑ
三十七
一　蓮　心の蓮　池の蓮　入江の蓮
子なの蓮　なあしの蓮　蓮　蓮入

芸池 蛍 庄の書垣 相坂山

[illegible]

一四 暑日 暑さ沢山の人 暑さ[illegible] 暑さ[illegible] 暑さ[illegible]

○[illegible] 蝉の声 月 紛紛 牧の[illegible]

[illegible] 蛍 [illegible] 心 [illegible]

閑 [illegible]

一四 納涼 夕涼 朝涼 下涼 涼[illegible] 涼[illegible]

立涼む 夜なき 心涼しき 夜[illegible]

[illegible] 夜もいさ ○袖の夕風 蛍[illegible] 村[illegible]

夕立 陽居の袖 月 柳陰 [illegible]

露分ル道 橋の上 川浪 竹戦 明[illegible] 網

代の床 [illegible]

風[illegible] 家陰

松[illegible] 桑[illegible]

[illegible]

一五 秋近 [illegible] 待秋 ○行蛍 [illegible]

[illegible]

八全 [illegible]

一 蜩 鳴蜩 蜩入声 捎のむしてし ○ 森 蓮 [illegible]

[illegible]

蜩 [illegible]

[illegible]

一 七夕 むこ星 七夕あひ 七夕のあり [illegible]

七夕の笑 七夕の手向の 月落さ夜 落方

[illegible] 秋の初風 急行の声 五年の秋 河母

[illegible]

渡る舟 [illegible]

庭の面 [illegible]

殘暑 [illegible] ○ 猿の袖 秋の故の声

[illegible]

むやくか 付秋納涼 むやくか 秋風 袖むやくか

[illegible]

○月みる袖　花蛍　雲の衣の夕の虫の音　[illegible]

折衣りけ　川辺の道　橋の上　森の下にけ

秋の調の笛の音　風そらく　袖の雲ぬらく

身にしむ　身に入る風　身にしむこゝみ　身にし

かく隈る月　○[illegible]の袖　菊の香　[illegible]の雲

衣の川音　うき思ひ　菊の匂ひ　衣のうつ里音

現のいとも　[illegible]人の[illegible]衣　[illegible]

[illegible]の秋風[illegible]の里　後成

秋　むさきなり　ひさき立　秋夜　秋の雲　演秋

行し[illegible]　初秋風　立涼む袖　雲夜夕　[illegible]

涼しき渡へ　清河原　浅茅いつ　青さらく

秋おつる清河原の霜の上よりさねとくさらぬ冬の月　經朝

桐　桐の葉　折の桐の人　もつき桐葉

○秋の雨　[illegible]の月　秋初風　井の[illegible]　雲の[illegible]

侍人も来ぬ　淋しき[illegible]　秋雨梧桐葉落時

[illegible]

御[illegible]　[illegible]　落ち[illegible]の下[illegible]

○秋の[illegible]　[illegible]　涼しき[illegible]　門口の[illegible]　[illegible]

川辺　[illegible]　●　[illegible]　相[illegible]

一十　扇置　玉扇　扇の[illegible]　捨玉扇

淋しき[illegible]　絶し[illegible]の声　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]

一十一　玉[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]

袖の[illegible]　[illegible]　首を[illegible]　[illegible]

古寺の秋　月の[illegible]　[illegible]　古塚

[illegible]

一十二　露　朝[illegible]　夕[illegible]　白[illegible]　玉[illegible]　上[illegible]　[illegible]

消[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　下[illegible]

[illegible]　[illegible]　涙の[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

○雨[illegible]　浪の[illegible]　[illegible]　月　袖の[illegible]　[illegible]

月　久方の月　月夜　月の光　八月　夜渡る月
弓張月　名残の夜の月　三日月
夏の月　今の月　むかしの月　月のさやけき
夜の月　月のすみのぼる　暁の月
文月の頃　月の影　月
今宵の月　名月　待宵の月　十三夜　十五夜　十六夜
いざよふ月　立待の月　十七夜　居待の月　十八夜
寝待の月　廿日の月　廿三夜　廿六夜　廿七夜
廿八夜　廿九日の月　晦日の月　有明の月　夜更の月

夏の景　泊舟　舟人の声　舟うた
春の山　秋の山　松風　松の声　松の雪
春の野　秋の野　野分　野風　野の露
春の水　秋の水　水音　水の流れ　水の色
春の川　秋の川　川風　川の流れ　川の色
春の海　秋の海　海風　海の色　海の音
春の浦　秋の浦　浦風　浦の波　浦の月
春の岸　秋の岸　岸の波　岸の松
春の磯　秋の磯　磯の波　磯の松　磯の千鳥
春の浜　秋の浜　浜風　浜の真砂　浜の千鳥
春の汀　秋の汀　汀の波　汀の月
春の洲　秋の洲　洲の千鳥
春の島　秋の島　島の松　島の月
春の入江　秋の入江　入江の波　入江の月
春の池　秋の池　池の月
春の沼　秋の沼　沼の月
春の堤　秋の堤　堤の月
春の橋　秋の橋　橋の月
春の関　秋の関　関の月
春の里　秋の里　里の月
春の宿　秋の宿　宿の月
春の山路　秋の山路　山路の月
春の道　秋の道　道の月
春の野路　秋の野路　野路の月
春の水路　秋の水路　水路の月
春の川路　秋の川路　川路の月
春の海路　秋の海路　海路の月
春の浦路　秋の浦路　浦路の月
春の岸路　秋の岸路　岸路の月
春の磯路　秋の磯路　磯路の月
春の浜路　秋の浜路　浜路の月
春の汀路　秋の汀路　汀路の月
春の洲路　秋の洲路　洲路の月
春の島路　秋の島路　島路の月
春の入江路　秋の入江路　入江路の月
春の池路　秋の池路　池路の月
春の沼路　秋の沼路　沼路の月
春の堤路　秋の堤路　堤路の月
春の橋路　秋の橋路　橋路の月
春の関路　秋の関路　関路の月
春の里路　秋の里路　里路の月
春の宿路　秋の宿路　宿路の月

一十五
葛　葛の葉　葛かつら　真葛　まくす原　葛
玉葛　葛の風　はふ葛　垣ねの葛
うら枯の葛　くすはかつら　這
神垣　はふ葛　夕暮　落葉　思へ　露　松の梢
野　秋風　ある里の思　吉野の葉　霧　[illegible]の渡
あき風の思のまゝに葛の住里の[illegible]人の秋風の吹く　定家
ある里の思のまゝに葛のうらみて寸絹の[illegible]や夜な夜な人[illegible]　家隆
秋の[illegible]の流れて葛のうらみも[illegible]白露　[illegible]

一十六
萩　秋萩　小萩　村萩　小萩　[illegible]萩
白萩　初萩　萩原　一村萩　[illegible]の萩　萩
の下葉　古枝の萩　萩の声　禁中　萩と[illegible]
萩　庭の[illegible]　薄　[illegible]の[illegible]　[illegible]　清涼殿　[illegible]
青の色　思へ　茶　[illegible]　川　[illegible]　田面
[illegible]の[illegible]の小萩咲[illegible]庭[illegible]月[illegible]

一十七
薄　付尾花　[illegible]薄　村薄　一村薄　[illegible]の薄　一[illegible]
の薄　庭の薄　[illegible]薄　[illegible]薄　薄[illegible]

[illegible]

一女郎花 [illegible] 女郎花 [illegible] 女郎花 [illegible] 女郎花 [illegible] 女郎花 ○[illegible]の月 [illegible]

[illegible]宿 [illegible]野 [illegible] [illegible]野

武蔵野 [illegible] 男山

女郎花 [illegible] 男山 [illegible]

[illegible]

二十 [illegible]の女郎花 [illegible] 小町

一廿宮 [illegible]や原 小萱 高萱 [illegible] 萱 [illegible]

萱下 [illegible] 小[illegible]や州 [illegible]や [illegible]や 萱州 [illegible]

○[illegible] [illegible] [illegible]人の月 [illegible]の[illegible] 伏猪の床

奥[illegible] 陸奥之 武蔵野 [illegible]官居

[illegible]何[illegible]や[illegible]

二十一 花野 [illegible] [illegible]草 [illegible]

[illegible] 草[illegible]の[illegible] 叢の[illegible] [illegible]草 月[illegible]

○虫の音や鳴麻　桂風　夕露　朝露　小露

廿二
うすら月

朝顔　むかしの朝かほ　色の朝皃　麻よりも朝

秋　日和　朝の朝かほ　まかきの朝顔　朝皃

夕顔　かな　今朝の朝かほ

○桔梗の露や　青き色　家の下庵　呉竹の末　秋夕

青き目の藤き　詠　わさうかにみ　白きをうらし

秋の風　色よりもかの露の朝かほの色

秋の草色よりも藤にまさりけり

此花の桂より此ものよ

涼しき

とりの花の色かれをよ

さ行くれさい涼しき

おもひつきくれかたの

○
みしかよの

押

廿三
稲妻　通ひ稲妻　宵の稲妻　稲妻の

かけ　いなづまの光　照らし

○蝶ゐの狭　月をまき夜　おぼ雲志　秋風
狭茅原　涼しき袖　田面　雨くらし夜
[illegible]　多羽田こゝてね　葛城山
[illegible]　[illegible]
[illegible]　甲田の稲[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　袖　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　○朔[illegible]　柳　[illegible]
[illegible]　[illegible]　秋風　[illegible]

小沢の月　稲[illegible]　布[illegible]　多羽田　伏見の里
[illegible]
一虫　付　松虫　鈴虫　虫の[illegible]　[illegible]　虫の
[illegible]　[illegible]　虫の[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　月の夕　園生　秋風　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]　伏見野　[illegible]

○松虫ニ　男山　嵐山○鈴虫ニ　鳴海野　[illegible]野
[illegible]
日
[illegible]
千
[illegible]
二十六
一廉　廉鳴　廉ハ小しと　廉の立ち　廉の[illegible]
廉の勅声　廉の[illegible]　小男廉　と廉　[illegible]
廉　[illegible]廉　[illegible]廉　朝鳴廉　廉の[illegible]
朝行廉　朝外廉　山[illegible]廉　[illegible]廉

とよむ廉　[illegible]廉　[illegible]廉　[illegible]日
○むし野　萩原　森　真葛原　田面　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　嵐山　小倉山
[illegible]浦　立田山　高砂　[illegible]日山　生田の森
洪路鳴　[illegible]城野　[illegible]野　武[illegible]野　[illegible]
[illegible]
古
[illegible]月夜小倉の山鳴廉の[illegible]
詞
[illegible]廉の[illegible]　伊家

注 洛路鴨川面の下に浦々船の鹿風に[illegible]西 浦風 [illegible]
日 [illegible]
二十七 小鷹狩 秋鷹 [illegible] 多屋出入鷹
袖の小鷹 手段小鷹 小鷹狩場 小鷹をとへ
洗く 秋の狩場 二入 [illegible] 小鷹の[illegible]秋鷹
毛とりかゆる夜も と尾鷹 日
○[illegible] 露拂野 酌酒 思越 [illegible]
花野 夕の月 [illegible]原 駒[illegible] 大井[illegible]

注 [illegible]野に秋[illegible]小鷹[illegible]
八月 [illegible]月 秋風月 [illegible] 月 八月 日
二十八 稲[illegible] 稲[illegible] [illegible] 稲[illegible]
[illegible] 稲[illegible] 刈田 田面の[illegible]
山田守 小田の[illegible] 田[illegible] 田[illegible]
[illegible]縄 山田の[illegible] 田子の[illegible] 青
○山里 康の声 夕露 秋風 [illegible]
声屋 [illegible] [illegible] 夜[illegible]の月

三十二
一司めし　八月十一日京官乃除目也
○さしわたる人　しこき袖　九重の内　都の秋
どうりのすゝ盃　[illegible]たけき

三十三
一放生会　八幡十五日　十六日　いけうを[illegible]つ川
流月　神酒　文人　秋の宮中
年中　それぞれて[illegible]る身をはなれ[illegible]人いけ[illegible]放つ川神の恵　[illegible]
男山　秋[illegible]やらんむかし川[illegible]放つ　四方[illegible]　[illegible]

三十四
一駒むかへ　○[illegible]やけき月　秋村の[illegible]　清[illegible]
秋の夜の[illegible]月の駒ハ都[illegible]
月
相坂の関の杉村二[illegible]　[illegible]杉の村立二[illegible]けき
相坂の関の[illegible]山[illegible]の駒　高[illegible]

三十五
一初塩　三河初塩　[illegible]初塩　[illegible]初塩
○浦まの月　夕浪の音　た[illegible]舟　秋の浦風
さらぐ[illegible]　一渡海[illegible]　初潮[illegible]八月十五日[illegible]　大潮満[illegible]三日[illegible]

三十六
一初嵐　吹初風　をきふ初嵐○　青[illegible]山

みたるこの廻　月の出しは　を消して　今宵
の月　二月の杠の下家
[illegible]
一野分　野分に　野分にて　野分の[illegible]　康夷
○[illegible]　夕秋月　乱[illegible]　[illegible]
よろる虫の音　草　木の[illegible]
源氏の[illegible]　夕[illegible]　野分の夕[illegible]
[illegible]　野分吹く屏風　几帳
[illegible]

みくしけるさきれ上に[illegible]
とゝ[illegible]
[illegible]
野分[illegible]　小野[illegible]　宋道
[illegible]
一雁　初ケ　夜の色　天津ノ　渡[illegible]　来ケ
[illegible]　美[illegible]　ノの涙　ノの一[illegible]　[illegible]
[illegible]　ノの廻　羽[illegible]　ノの[illegible]
○沈月　秋風　妹の海[illegible]　曙　旅[illegible]　[illegible]

門田の冬 舟路 枕 蔵山 沢の 紅葉 若鹿

衣擣 二十五の斗山 峯人 真砂地

古 秋風は吹たる砧の音も誰がまくらにかよふらん 貞徳

新古 人の身の夜寒に衣うつ声は寝ぬ夜の月にしられけり 定家

月 大江山かたぶく月のかげさえて鳥羽田の面に落る雁がね 同

慈 夕ぐれは三輪の山田に鳴く夕日かげ秋の村雨 定家

三十九 一鶉 鶉の床 鶉の声 ふるき風 鶉 すみかける 鶉

これ人の住風 尾花 まがき 深草 芦原 荒たる里

若菜 家の叢 月 深草の里 かた野 真野

合 うづら鳴真野の入江の浜風に尾花なみよる秋の夕暮 後拾

新古 ゆふされば野辺の秋風身にしみて鶉鳴なり深草の里 俊成

千 ふるさとは浅茅が原とあれはてて夜すがら鳴鶉

なくのみぞ 渡る鳥 園 鶉の行 園 かり田

四十一 一鴫 鴫の羽がき 鴫の ○ 垣ね 庭 門田 森の梢 秋山の溝 ますらをの胡

羽音 鴫立沢 鴫の伏 鴫の百羽がき 鴫の

の上毛の沢辺 刈田の面 暁 霜夜 稲葉

君ゟ来ぬ夜　伏見の田井　猪名野

古 暁の鴫のこねぬきことゝとゝ君ゟこぬ夜ハ鳥ハ鳥ハ鳥ハ　よこ人 知

是 これ行のかしまの里にかすむ鴫の床も花をよ秋風にかくゐ

四十二 百舌鳥　こそ寸偽くく　もしのゐり聖人こそ寸の草莖

しな枝の荻　石茶　尾むり末　一村薄　聖人の秋風

淋しき枯野　こしの木末　鐵の頃孫　罠人　山陰の里

こしの草莖とハ恋るゞの約束の志るし　よこ人 志

万 きれ人ゝ賜のさくきみてすとも知みゆ君ゟわくと

賜のゐりかるの荻も霜ゟれ朝の原ゟ行りそれ　本来

夜 頃ねよりすのこやかそこゝとゝこその田おきに悪ゝ　後れ

四十三 一長夜　おかくし夜　秋の草　なりき夜比

物思ふ床　光の孫光　よりこの夜ゝみる月

待よこゝ袖　果なきこゝ涙　抓られ女抓　ゝとき

鹿の声　千度ゝ川衣

おし曳れ　ゝるの尾のこゝり笑の寄し夜ゝ揺ゝ孫ん　人丸

ゝ庭入也　よこ初れきゐるこれ書くまれの夜ゝつきこゝ　由相

五十九

四十四 一崩築 くづれ築 やれくづれて

○河ぞこ浪 浪さわぐ音 川瀬の紅葉 下す紅葉

田上川 ○宇治川 あ[illegible]川

[illegible]古 [illegible]川や[illegible]浪[illegible]

四十五 さゝ鮎 おとり鮎 ○河瀬の月 秋の月 冷しき

山川 [illegible]の草 [illegible] 宇治川

八雑 [illegible]鮎の川柳下[illegible] [illegible]

九月 [illegible]月 稍の秋 [illegible]月 [illegible]月 [illegible]月

四十六 一蓋 [illegible]蓋 きりぎしの邑 よくるる蓋

○枕の月 [illegible] さ筵 霜夜 草垣 夜[illegible]

淋しき夕 真葛 よもぎ[illegible]の宿 淺茅生 夜寒

かへのすきまよ [illegible]葉の間 床の下 [illegible]野

[illegible]古 きりぎしの夜[illegible]の[illegible]の遠さ[illegible]ゆく西行

[illegible]古 蓋の[illegible]や 霜夜のさ筵よ夜[illegible]き独りも寝ん 拾遺 不下

[illegible] 夕[illegible]の蓋枕の[illegible]の声のきこゆる 家隆

四十七 一夜衾 夜衾音 衾や麻衣 [illegible]て 衾 袴 [illegible]

あり夜掃　磯の浪ち昏　○祢足の花　山里
旅祢ぬうき　永夜　後の住家　わさだ山の宿
戸の声　文行月　旅人を待ち　漸逸き袖　うゝ旅
の舎り　伏見の里　葛城の里　あしやの里　玉河の里
苔地に霧の上る　月に入舎　点　十市の里
千
松風のまさに秋のきにしき　夜の川之玉川の里　後れ
さむしろとおくる霜夜によりてすりてさら堂に夜　河内
八月九月正長夜　十声　万声　無止時

利吉
かれ北の松風さ更く　夜の川之　雅道
同
都にも今や夜の川の山夕霜ならふ葛の細道　定家
四十八
一菊　白菊　八重菊　菊の匂ひ　菊の名　浪ひ菊
菊の菊　まさ菊　山路の菊　八重咲菊　菊の下あり
○秋の胡蝶　雪の色　夜の露　松陰　朝霜　紅葉
沈月　酌酒　仙の宿　九宝の花　山川の流　舞人
酒　山路　十方舞の霜　大沢池　笠野　大井
甲斐鴻　棹川　吹飯浦　吹上　笠城　網代演

新古今 露霜のおきつゝの夜に紅葉せり山のさとの紅葉 家隆
秋の色をみなせの川の花に初瀬山花嵐も峰にさそはん 家隆
一（圭二）紅葉 薄紅葉 村紅葉 かつちる紅葉 ちゝの紅葉
あかさん 柿の紅葉 あへの紅葉 草の紅葉 山のさ
山の錦 ―ちるもゝしき ○嵐吹夕月 時雨降山
槙原 松 菊 峯 霜 男鹿 岩垣 煖酒
もみぢ山 森 車 留る道 行幸 小倉山 大井河
…紅葉心あらば今一度のみゆきまたなん 貞信公

停車坐ニ愛ス楓林ノ晩

新古 あすしらぬみむろの山の紅葉ちるとも人秋をみる 家隆
新古 下紅葉かつちる山の夕時雨ぬれてや鹿のひとり鳴らん 家隆
伊勢の海のあまの紅葉や紅葉ちる小舟さしくる林風 貞…
源氏紅葉の賀 紅葉の陰にて舞…
紅葉のおの左大将…庭の菊をかくか
ざしにて青海波まひ…
一（圭三）煖酒 わくらはに暖盃ナドモ ○菊の宿 市人
月の友 めづる紅葉 秋の里 神楽 狩場 …

琴 詩ヲタ 二の人座ー 林間焼酒ヲ焼紅葉ヲ

一露霜 霜ニ露のむすぼくも枯て○ 吹田 冷し月

紅葉 うしろ山菊 草の表枯 りまこり虫の青

秋きりき 稲しきぬ假礼 落葉涙むすむて

一霧付 二八○ 村紅葉 鳴鹿 さきれ凡

中秀 袖の涙 空の月 秋のりの 野山の名

物かりし袖 涙きれあるよし 秋凡 冬より氣

一正本 正本のうつ まさのあうつ

○秋の凡 霧霜 かし山のりの 岑の凡 山路の

鹿の青 金人あさ山越 淋夜果山

秋山ニ正本のうつ夜付ハ冬くるく物ハ かしき

源山ハ霧かしし かし山なり正本のうつ有なり

一邦 ちうる夜 はくれ紅葉 はそ原 岩かしはそ

ちうる枝 ちうる一葉 邦 ちごく

○霧付夜 鹿 秋凡 月乳 芳 さほの山

山名稱 森 石田の小野 大井川

○秋風　奥山　山里　秋の村雨　擣衣　すまう山

○霜　霜　山路　霜の置く　山田守　冬田　霜の置く

○雁　雁の鳴く　雁の来る　雁の声　雁

○鹿の音　鹿の声　鹿の鳴く　鹿の妻呼ぶ　妻の鹿

○秋風　秋風の　秋風に　秋萩　秋萩の　秋萩を

○萩　萩の　萩に　萩を　萩の枝　萩の葉

○虫　虫の音　虫の声　虫の鳴く　松虫　鈴虫

○蟋蟀　蟋蟀の　蟋蟀の鳴く　蟋蟀の声

○雲　雲の　雲に　雲を　雲の上　雲の中

○雲井　雲井の　雲井に　雲井を　雲井の月

○雲居　雲居の　雲居に　雲居を　雲居の月

○雲路　雲路の　雲路に　雲路を　雲路の月

○雲間　雲間の　雲間に　雲間を　雲間の月

○雲隠　雲隠れ　雲隠れの　雲隠れに　雲隠れを

○雲上　雲上の　雲上に　雲上を　雲上の月

○雲客　雲客の　雲客に　雲客を　雲客の月

○雲林　雲林の　雲林に　雲林を　雲林の月

○雲林院　雲林院の　雲林院に　雲林院を　雲林院の月

○雲林院の辺　雲林院の辺の　雲林院の辺に　雲林院の辺を　雲林院の辺の月

○雲林院の辺の里　雲林院の辺の里の　雲林院の辺の里に　雲林院の辺の里を　雲林院の辺の里の月

○雲林院の辺の里の庵　雲林院の辺の里の庵の　雲林院の辺の里の庵に　雲林院の辺の里の庵を　雲林院の辺の里の庵の月

○雲林院の辺の里の庵の前　雲林院の辺の里の庵の前の　雲林院の辺の里の庵の前に　雲林院の辺の里の庵の前を　雲林院の辺の里の庵の前の月

○雲林院の辺の里の庵の前の小道　雲林院の辺の里の庵の前の小道の　雲林院の辺の里の庵の前の小道に　雲林院の辺の里の庵の前の小道を　雲林院の辺の里の庵の前の小道の月

○雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍　雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の　雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍に　雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍を　雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の月

○雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の木　雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の木の　雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の木に　雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の木を　雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の木の月

○雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の木の下　雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の木の下の　雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の木の下に　雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の木の下を　雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の木の下の月

○雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の木の下の露　雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の木の下の露の　雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の木の下の露に　雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の木の下の露を　雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の木の下の露の月

○雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の木の下の露の玉　雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の木の下の露の玉の　雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の木の下の露の玉に　雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の木の下の露の玉を　雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の木の下の露の玉の月

○雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の木の下の露の玉の光　雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の木の下の露の玉の光の　雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の木の下の露の玉の光に　雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の木の下の露の玉の光を　雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の木の下の露の玉の光の月

○雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の木の下の露の玉の光の下　雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の木の下の露の玉の光の下の　雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の木の下の露の玉の光の下に　雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の木の下の露の玉の光の下を　雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の木の下の露の玉の光の下の月

○雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の木の下の露の玉の光の下の風　雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の木の下の露の玉の光の下の風の　雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の木の下の露の玉の光の下の風に　雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の木の下の露の玉の光の下の風を　雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の木の下の露の玉の光の下の風の月

○雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の木の下の露の玉の光の下の風の音　雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の木の下の露の玉の光の下の風の音の　雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の木の下の露の玉の光の下の風の音に　雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の木の下の露の玉の光の下の風の音を　雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の木の下の露の玉の光の下の風の音の月

○雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の木の下の露の玉の光の下の風の音の声　雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の木の下の露の玉の光の下の風の音の声の　雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の木の下の露の玉の光の下の風の音の声に　雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の木の下の露の玉の光の下の風の音の声を　雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の木の下の露の玉の光の下の風の音の声の月

○雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の木の下の露の玉の光の下の風の音の声の鳴く　雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の木の下の露の玉の光の下の風の音の声の鳴くの　雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の木の下の露の玉の光の下の風の音の声の鳴くに　雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の木の下の露の玉の光の下の風の音の声の鳴くを　雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の木の下の露の玉の光の下の風の音の声の鳴くの月

○雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の木の下の露の玉の光の下の風の音の声の鳴く虫　雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の木の下の露の玉の光の下の風の音の声の鳴く虫の　雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の木の下の露の玉の光の下の風の音の声の鳴く虫に　雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の木の下の露の玉の光の下の風の音の声の鳴く虫を　雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の木の下の露の玉の光の下の風の音の声の鳴く虫の月

○雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の木の下の露の玉の光の下の風の音の声の鳴く虫の音　雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の木の下の露の玉の光の下の風の音の声の鳴く虫の音の　雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の木の下の露の玉の光の下の風の音の声の鳴く虫の音に　雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の木の下の露の玉の光の下の風の音の声の鳴く虫の音を　雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の木の下の露の玉の光の下の風の音の声の鳴く虫の音の月

○雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の木の下の露の玉の光の下の風の音の声の鳴く虫の音の声　雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の木の下の露の玉の光の下の風の音の声の鳴く虫の音の声の　雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の木の下の露の玉の光の下の風の音の声の鳴く虫の音の声に　雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の木の下の露の玉の光の下の風の音の声の鳴く虫の音の声を　雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の木の下の露の玉の光の下の風の音の声の鳴く虫の音の声の月

○雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の木の下の露の玉の光の下の風の音の声の鳴く虫の音の声の鳴く　雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の木の下の露の玉の光の下の風の音の声の鳴く虫の音の声の鳴くの　雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の木の下の露の玉の光の下の風の音の声の鳴く虫の音の声の鳴くに　雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の木の下の露の玉の光の下の風の音の声の鳴く虫の音の声の鳴くを　雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の木の下の露の玉の光の下の風の音の声の鳴く虫の音の声の鳴くの月

○雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の木の下の露の玉の光の下の風の音の声の鳴く虫の音の声の鳴く時　雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の木の下の露の玉の光の下の風の音の声の鳴く虫の音の声の鳴く時の　雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の木の下の露の玉の光の下の風の音の声の鳴く虫の音の声の鳴く時に　雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の木の下の露の玉の光の下の風の音の声の鳴く虫の音の声の鳴く時を　雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の木の下の露の玉の光の下の風の音の声の鳴く虫の音の声の鳴く時の月

○雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の木の下の露の玉の光の下の風の音の声の鳴く虫の音の声の鳴く時雨　雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の木の下の露の玉の光の下の風の音の声の鳴く虫の音の声の鳴く時雨の　雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の木の下の露の玉の光の下の風の音の声の鳴く虫の音の声の鳴く時雨に　雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の木の下の露の玉の光の下の風の音の声の鳴く虫の音の声の鳴く時雨を　雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の木の下の露の玉の光の下の風の音の声の鳴く虫の音の声の鳴く時雨の月

○雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の木の下の露の玉の光の下の風の音の声の鳴く虫の音の声の鳴く時雨の音　雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の木の下の露の玉の光の下の風の音の声の鳴く虫の音の声の鳴く時雨の音の　雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の木の下の露の玉の光の下の風の音の声の鳴く虫の音の声の鳴く時雨の音に　雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の木の下の露の玉の光の下の風の音の声の鳴く虫の音の声の鳴く時雨の音を　雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の木の下の露の玉の光の下の風の音の声の鳴く虫の音の声の鳴く時雨の音の月

○雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の木の下の露の玉の光の下の風の音の声の鳴く虫の音の声の鳴く時雨の音の声　雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の木の下の露の玉の光の下の風の音の声の鳴く虫の音の声の鳴く時雨の音の声の　雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の木の下の露の玉の光の下の風の音の声の鳴く虫の音の声の鳴く時雨の音の声に　雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の木の下の露の玉の光の下の風の音の声の鳴く虫の音の声の鳴く時雨の音の声を　雲林院の辺の里の庵の前の小道の傍の木の下の露の玉の光の下の風の音の声の鳴く虫の音の声の鳴く時雨の音の声の月

涙の時雨　本草時雨　○雲　雪　落　霜　雪
月　山凡　本枯　葉乃入日　和葉　ぞとき　此本の戸
麻の袋　小乃岑　志ミつゝ　冬さ　袖乃涙　森
本草　蛍音　河音　蟬の声　時雨ニ似タル
神無月　時雨の麻ゆゑ　黒わさちかをさへ　時雨
下　ぬきかけ　春山の又時雨　まくや　麻の　猶鳴らん　家隆
本の　ぶのこ　あとゝ　時雨ハ涙を　後代
神無月　降ミ　ちまき　時雨　冬の　人　和

秋　秋篠やか山乃里や時雨ハ　ゆゑ　ゆゑ　秋
一霜　初霜　朝霜　夕霜　霜まよふ　霜　霜
玉霜　結霜　八重ふる霜　霜消て　霜　霜
霜乃　朝消　霜わさ　霜乃朝を　霜さや　仙行
霜　ゆゑ　霜の　遠　わたの霜　霜の松　霜
霜　霜と　霜の　○夜月　山陰
秋の月　鐘乃音　楊乃上　草本の冬かれ　冬野
竹の　篠原　よろ　虫乃青　ぞき　山凡

木葉落 [illegible] 薄の枯のこゑ

朗 凡吹枯木ヲ晴天雨月照ニ沙ノ夏夜霜

[illegible]

高砂の尾上の鐘ハ霜のさゆるにを乃つゝあるとも

大唐世ニ嶺山の鐘ハ霜のさゆるにを乃つゝあるとも

[illegible]

三 一木葉 [illegible]

[illegible]

○尾上かゝりし 山凡 霜 森 山河のれ 網代の浪

山路 又落葉ニハ すゝかゝす多 羽ニ入れ行て也

四 一冬乃菊 枯殘る菊 [illegible] 菊

○霜しきき 霜ぞうぬ 南の庭 色乃内 山路の霜

仙人の宿 羽ニ入る蝶 羽ニ入るハ冬ニ 但ニ云ハ神ニ

二 一枯野 草木 野山 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

天 入日さす同しかたゝ八浦風よりの浪ふる高三さふ人 為家
如 大井川かたゝ紙はおとゝめきて為さ風さきのかふる侍 師附
判古 夕さ風ふ諸風あしてみちのくに御白の玉河ふる鳴こ 結母
七 鷺付ハ 為ふ之ふ為ふ之 鷺鴨入壺 鷺の羽袖
鷺の色 鷺のとゝねの床 鷺鳥 つゞきは鷺
鷺の侍 池に住鷺 鷺のとゝきね 鷺の羽風
鷺の青 わらそ 鷺の二つ心の池の 玉も
霜夜 かゝて芦の あかつ 七月 山川

山石孫の 二や の池 生田川 戸 鷺 背 大ゞ自然の付合
又 小屋の池うり 家もしの二流む 淮ぬ背のうち 人 まつ
同 戸 鷺 まりくきて流るゝ 鷺 一村 仲
八 一鴨 わし 鴨 鴨 鴨の上も 鴨の羽ひ 鳴鴨 鴨の
羽色 鴨の 鴨の床 わたる芦鴨 鴨の 蓮 鴨の
水の床 鴨の 鴨 わらむ わらひ 河 村
○入江の草 山 けの あつ川 大方ハ鷺の付 今ハ
古 芦鴨の 入江の白波の 人 今ハ 鷺

古
よしのなるなつみの川の河よどに鴨ぞなくなる山かげにして　湯原王

九
一木枯　風木枯　峯の木からし　夕木枯　さそふ木枯

○さびしき山陰　さやかなる月　霜　笛の音　冬籠

峯の炭　かへる山路の夜　何故　帰るさ　山人

十
何ごとをまちて侘しき山のこなたに信雅

十
一「山炭竈」　とみやく烟　炭やき　炭焼の翁　炭売

炭車　炭積車　炭焼衣

○何事のもし　苦しき山　さびしき山里　冬ごもり

大原山　小野の奥

古
月殺ゆる大原や小塩の山の炭竈も　大原の里　式子内親王

秋
深山木を炭にやくなる煙こそ　山炭やき　好忠

十一
一網代　網代守　網代木　網代の床　網代川

網代人　網代のひを　魚之　ひをまもる

○川浪　もみぢ所　氷　さびしき夜　浪の江ふかく

川瀬の月　宇治　田上川　近江の海

千載
神無月ちらの網代の水奥より紅葉なかるる錦なりけり

千
朔朗らかの河内左らくまわりそれ後きらの網代木 定能
登
田上の網代や冬の夜の月はきえて水よりみちのかみに 家隆
十
鷹狩 はし鷹 鷹の尾かけのはし鷹 草鷹
荒鷹 鷹の羽より 放鷹 とりかへる鷹
粥しる鷹 ましろの鷹 やかたをの鷹 白ふの鷹
鷹人 狩場 鳥立 ものの落草 狩けり
かりの色 の狩場 狩人 狩衣 狩暮 狩野
狩場の犬 狩杖 射翳 狩しする 狩場の山

狩場の世二 狩場の雉子 ○鳥持の袖 砂酒
交野 交野の道 雲の行 山越 草枕 兎の野
宇陀野 駒いさむ 阿波野 大原 行幸
交野の里、小塩 雉子 作より日を二様
君よさこ小塩の山の小松原けふこそ神代のこともおもほゆ
此方八月鷹狩の時冷泉院の御幸にまいりて源
氏へまいる時 大原まで
新後拾
住吉の松も千とせよむかしの片をかけるまさにあるべし 忠定

十三
一 [illegible]を月 月をきき 月をて 冬乃月 月の雪
月の雪 月乃雪 ○冬乃夕秋 霜夜 小夜風
夜舟乃浪 [illegible] 寒 [illegible] 亀
十一月 雪月 雪月 神示月
雪尺月
十四
一 氷 薄氷 朝氷 上氷 氷石 氷くくる
うすゝ氷 薄氷 [illegible] 氷 とつる氷 [illegible]
をうす氷 わ流氷 [illegible] 流らく [illegible]
○遠さう川 青 芦への霜 [illegible] 鴨 [illegible]

地方 汀乃月 [illegible] 志賀の浦 幸崎 [illegible]の地
[illegible] 肥後
[illegible] 密源
[illegible] 後成
川 [illegible] 匡房
[illegible] 弘昭
十五
一 [illegible] ○[illegible]
[illegible] 冬川 [illegible] 浦[illegible]

十七 三ヅレ
一 霙 みぞれ[illegible] 霙降 霙して みぞれ[illegible]
○ 戦ハ 行の事 月をとき 枯の事 [illegible]
はしたり 山路 [illegible]
漂漂 消かて[illegible]
伊勢[illegible]
十八
一 霙 霙降 たゝしる霙 む霙 霙[illegible]
ちる霙 霙の事 霙[illegible]
○そよくしく原 [illegible] 深山 槇の[illegible]
[illegible]板屋 狩場 [illegible]野 [illegible]人

[illegible]山 正木の[illegible] 行の事 [illegible]
[illegible]霙[illegible]
月 [illegible]槇の板屋[illegible]霙[illegible]
詞 行の事[illegible]
[illegible]
春雨 武士の夫[illegible]
十九
一 小冬 下酉日 加茂の[illegible]
[illegible]
[illegible]

○注 [illegible] 舞人 白髮の内 うたふ声

神 [illegible] 酌ノ酒 物の青

二十中 子ま振かもの河風 [illegible] 神 [illegible] 宝家

[illegible] 神 [illegible] 宝家

二十 [illegible]

○山城の竜 大原 [illegible] 柴の声 雪の中 [illegible]

二十一 [illegible] 夜の[illegible] [illegible] [illegible] [illegible]

○[illegible] 霜の夜 中の[illegible] [illegible]

[illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible]

十二月 [illegible] 三冬月 [illegible]

二十二 一神樂 付燎 [illegible] 物 小夜神 [illegible] 神 [illegible] 湯

神 [illegible] 神 [illegible] 里神 [illegible] 内裏の[illegible] [illegible] 里神 [illegible]

△燎 ハビタク 燎の[illegible] [illegible] この燎 燎と[illegible] 神 [illegible]

△榊 [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible]

うたふ [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible]

○かくしの[illegible] [illegible] 月 天津星 [illegible]

二十五
一年門之春　冬なりう　立春　○雪　冬の木の初
りつ春　雪なりう　雪ふり日　三河げき日記　冬なりぬ明日
二十六
一佛名　佛名とは内々長へ出れ遊めして三世の佛の
名を唱させ給ふ　十九日より二十一日之夜を
灯　吉寺　橋の方は　むすふ　あり井　屏風
ゆうち　すむ河　引　あり月琴
丈
あゆくてむ行の行かけて　三世の佛の名を唱ふる　未遑
二十七
一荷前（ザキ）　十二月吉日を撰えて先皇の
以後幣帛とすべきなり　昔とそうよりと
年中
[illegible]　宋書

二十八
一追儺　追儺の夜半　なやらふ声　鬼やらむ
毎日大内にて桃の弓あしの天にて邪気を射させ
まつりし　慶雲二年　十二月二始
○救多の灯　冬の夜　故事にけき　大内
むいなる数
年中
今はて一夜に始く　芝の天の　いろことく　年も　[illegible]
二十九
一年の雪　付侍る　去遊き　去の儀　冬も
行くし　なぐるく年　年の事　二十日とり
年のかぎり　行年をまりう夜

○佛し　唱ふる　なげく老の身　連ゐ　さらぬ
きぬ　往来といふ道　狭の釈くりる
古　[illegible]　春道列
拾入　[illegible]　掛
[illegible]

上巻之終

恋之部

一恋　妹恋ひ　いと恋　うき恋　恋とてふ　恋俺て　恋草
○みそめし人　頼む妹　とくる文　お俗をなりき人
涙　いとぬるけき　むし　やつる　[illegible]　いふし　[illegible]
人　[illegible]　かいまみ　付
○恋しき　付ひとぬ　[illegible]　いふ[illegible]　都の方
遠き道　捨し　[illegible]　[illegible]
古　[illegible]　小町

一 うゝ まとめ たなれめ 一夜書
○ちりなき哉 しらし別 旅の宿 泊舟
野上の里 三ヶ浦江 難波江 浪書
川の風に浪の涼なれ物りくるれたれ[illegible]
一 いとしり 妹りりの道 妹りり行 仲正
○陽の中 行袖の露 子鳥鳴 [illegible]る門
[illegible]く 関の戸 [illegible]の堂
[illegible]妹りり[illegible]冬の夜の河風[illegible]

山城のみ[illegible]の里に妹をいきて[illegible]舟よりふ[illegible]
[illegible]河辺のちりく袖さてあくてあかの月 [illegible]
[illegible]妹の[illegible]
一 [illegible]
[illegible]生 形[illegible]
一 新枕 [illegible]新枕 [illegible]○三本侍[illegible]
[illegible]
[illegible]

生されたる人　墓　中川の宿を　朱塩ハ小山を
かむまゐ人を塩ぞこの方へ入りみさやうの事を
源氏中河の宿へたそかれは小君の車よりて惡ひ
て行ひまゐて蝉ハまゐむまゐて墓をとゝしをまゐ
を源氏かむまゐ人をみまゐ又朱塩ハ源氏小山ハ
まゐしかむまゐ座を打ふし紫燈の宵坊へ立よりも
あふ式の上の十斗に感をまゐをみまゐ

二十八
一伴ノ　天し伴　かゝる伴　母面紀　伴まゐ川

○髮　焼　二寸の内　三人　誰　小車　乱髮
穀　よりし　繪　光の源の君　ふさき衾　焼まゐ網

伴ハ白ハ似ぬ斗かさねきて大ひとに流く高きすの根
二十九
衣くの袖の涓とうくみまて面けたひ方の月　法皇ハ覆
一占方　ゆさしき占　けるなき占　門占　辻占　夕
けさふ夕にとふ占　○定める奥　教メ　待旅人
日を撰ふ首途　わやうき命　伴ハ人宿
三十
わかり　わかり　とうやうや名ハ占ゆきにつきのおくりもせ　信實
一物の字ニハ　伴まくこの根　床の上　乱髮　落る涓
生まゐ人　小堂の奥　行こゝぬ　舟の行やうぬ

入山道のなりしとハ此姫女三の君の母まこと女三の
の母ハ此墨の上の所にあるハ此かへ女三をハ源氏へ
来ゝ是ハ結ぶて未雀院とあるに此ハ人せい道こ
義かとも何か母なん世中をとゞ捨ひしまて悔しき
こゝ惟高のみこの所にあるにはゆゝ小かくまうで
あるにてよくまゝ此ハ所の所返りし
付 上れくさ義かとそ思ひきやうに踏分て君をみんとハ 葉
古 世にいとむ本の世にしたりしかゝ後の麻の函
うゝ後とかゝりしかゝて後てきるこ
語 ハかゝ世のくき事ハ此ハ世にまゝ身を歌也 西殿

二 昔 付いかし 思ふ昔 昔人 昔語 昔愛
昔とおもふ 昔風雲 ゐるいかし 思ふ 思ふ 思ふ
の愛 忘るなむ 思ふ ○ 無人 古塚 尺し 愛
老ゝ身 草庵 子規 袖の涙 夜長き 柳
朽木の花 白髪 妹の記念 ナ説 匹し 此幸
仕へし君 此日 去年 志賀の都 奈良の都
布留の都 橘 孫兄 双成 とゝ 月日
おもふ身 富にしの身 しらしこ 此世 身の

古 柳むちゃうむちゃうもこむちゃのこをいふなりあまりかな 葉本
彩古 花の浪越けり月にそうなけれ今年をしたれ末の松山 宗長
四 一 隠家ニハ○淋しき心 思ひいれ人 乱れ国 極り
をとらぬ 月むとみぬ心 いちとやき世 よしの山
峠 嫁の奥 柴の戸閉 里の畑 狩場の伏猪
君の世なるぬ 世代捨る 頼なきも
必 風をこり隠家にすり心里にいてゝ月のゐさつ人 基経
日 山里の雪れりくれ畑人まもなりとそこにしらん 肥気

五 正毎夜ニハ 涙かけぬ袖 谷の戸 松の上竜 捨し世
古 みなし人そむの夜になりぬ毎の袂よりくきたれをとに 遍照
撰 山石の人に猪猴とされそいに隠若の夜をあるかな 屋小町
六 一 墨染の袖ニハ○ 君りなき絶 思ふ昔 法師
寺 宝の戸 左近 流人ハ服のことくこそ涙を
きるをとなり
世といふ 無絶とそこ 法とおもふ あるかを後
掻つむ 形変をもりなれ 谷の戸むもふ
宝を出る 小町く奥 乃ぶ奥 吉野山 岩城

一百夜と出る　秋月を送る　霜に虫の鳴絶る
かさりこそいくるゝ人の出しきにいかゆきかゝる
見ハ源氏の元母桐壺の文衣の事
吉　夢ゝ義いきもやまるゝ心みよむのをれあくんと歌
十　古塚ニ　杠凡　虫の音　生田　冬野の薄
苺の袖　草滋き道　舟岡　深草
二　舟思の裾かゝ塚の教そへて昔の人に君をなしつゝ
十一　草の原ニハ古塚　猿の假孫　虫の音く

荒小田　駒放ちとく
荒あ　うきも世にやうて消なかりてもまゝ風をとりしそ思ふ
見ハ朧月夜内侍のうれあく草のたゝらそとハ
なき人のうゝみのなるゝ朧月夜に草のたゝら付
とおのあるを
お消ち月夜と袖ゝぬまそふ
露とこにいまるなきえ人草のたゝら心殺
武蔵野ニ草の原付ハたゝるなれ　長傷の心なし
初　まゝもむとのむさしなよ草のたゝらより出る月かけ　拾政
十二　末の松の草下ニハ涙のさきあ人　雲の袖

まふよ名殘を行しみまふ　八ツ方之
夜鶴ハ旋子ヲ　嘯ハ竜中ニ
一十七　趣りりニハ。捨し世　玉案　武蔵ハ
二ツ位家　古塚　おそろ伊
登　蓋打し芝蕉ハ宿り人ゆりのさ丸夜の下りけ窓
一十八　寺　古寺　遠山寺　林原寺　寺ハ入
うこ寺　岑の寺　寺の庭　寺の門
○説法　行の声　結ふあり井　孫ハ百世

軒の松風　松の下ニ　蘆　檪ハ　材の奥　灯
淋しきを入法　雅波　泊れ　小倉山　清見
松の道木　杉　松原　雲むし池ハ　蓮ハ
小寺の春夜ハ書きてとれハ入金の蓮ハ　結間
又たらむ　ゆしの山の林原寺　松の竜ハ月の入月　後ハ
一十九　宝　ニハ〇一ツ　小野の奥　灯　世ハ
一二十　法　法の場　法の灯　流法の
四法　法の　法の　法ハ入人

法の月 きこえぬ法 法のをしへ 法の衣
法の袖 法のむしろ 法の師
○寺の戸 盂 寺の住来 露 墨染の袖
阿伽の一夜庵 おこなふ物の姓 糸竹の声
鐘の青 二月の別 暁起 擬摘 擬むるこ
薪 おろ 舩 馬 関の桟 志賀の浦浪
あらたなる ことハさしおきて法そなりけり
むかしのその心をさへ法の上なるやましく

あさまつりて心浮かなとよ ませらまし法をかへ
まよひわたりの上にも心あらん
法の水の難波のことも法とおもひかはしたかひにまたあれと
谷の岩根をおもひて法の薪にかへし
一行に八○暁叔 遠乃寺 擬の烟 舟人
あらたなる 廿五夜 山守の戸 そきうし足駄
保寿の宿 灯乃行 代々清る 住へある
まれなくやとりさへたちそへしをゆきあるかな

是ハ源氏の君に与之夕かほの宿にて句ひたる夕顔
隣の家にて何有のをと一首むすびてつかはされける夕顔
の人との契りここにはまりて尋ねられしきその哀
二三二
一ゆかりには○世を捨人 行人寺 一枝の花 法師
萩木菜 むらよわる星 笠の一さかり 礎に松木
二三三
一あかつきには○行 行く浪の舟 やつれし袖
宮むの戸 山の井 暁月 岩根の流
大
夜もすから何処のあかつけはいかにも長夜を見よ 暑信
大
ままみなくわかれ影よ からるへき何を寝覚のむかしの途 知
二三四
一ことはし暁には○の暁とふくて○行 鐘の音 人を別之
し夜の恋 高野山 か杉のはしけより野之
わか後さ
るめまてに世の哀も見ぬ事ことに暁を松の風 元竹
大
わか恋のくれかけの清きもみつ世をもはしと仲正
二三五
一夜の夢 法華経の声○被てすまる霊 袖の露
本のこよひ露 袖の月
大
夜まつかむまたけてあらきり流之むさそでにしきれ行れ 赤染衛門
二三六
一佛には○掲む 焼帳 二月 行人袖 古寺

一年乃書 泊瀬 [illegible] 高野山
一夜竜ニハ ○ [illegible] 法乃[illegible] むさ[illegible]
[illegible]
一夜乃世代 [illegible] ○佛の[illegible]
[illegible] 家と[illegible] 脱起 春乃[illegible]
春の[illegible]
[illegible] 春[illegible]

神祇 旅之部

一神 神道 神垣 神社 神祭 神事 神代
神の庭 神の[illegible] 神の[illegible] 神さ[illegible] [illegible]
○文字 社 鳥居 朱の玉垣 [illegible] [illegible]
[illegible] ぬさ [illegible] 白[illegible] [illegible] 星
燎 [illegible] 三輪 [illegible] 大原 春日 日吉
一文 [illegible] 文路 宮立 文柱 [illegible]
[illegible] 宮所 ○琴乃音 四乃[illegible] 神とさ
[illegible] 灯 [illegible] [illegible] [illegible]

丁の壱　月の下旬　相坂　淀川

[illegible]

[illegible]

先ハ伊勢物語ニ旅行[illegible]

[illegible]

都[illegible]白河乃関　[illegible]

一　都をおもふ　思ふ[illegible]　○旅行月

[illegible]　[illegible]　泊舟　世を捨し身

[illegible]乃友　難波　志賀の[illegible]園　[illegible]浦人

小野の住家　舟乃上

[illegible]

[illegible]

一　[illegible]　中舎り　舎りとふ　舎りゝ　旅乃宿

[illegible]行くる道　[illegible]　駒[illegible]　[illegible]　火

[illegible]　[illegible]　道急　衣[illegible]音

[illegible]

一 関
関の戸 関屋 関のこなた 関の板間 入関
関越る 関路 関守神 関のあなた
遠き 古宮 杉村 旅人 駒 名の吉
人め 夜ふかき道 かり枕 清かりつる 相坂 須
戸の浦 白河 逢栖 本情 清人塚 不破 珍磨
旅人の袂涼し 夜ふかり関吹こゆる須磨の浦風 行平
相坂の関の関守出てみよむまや侍むの絵き通 寂蓮
朱名にも蛛のかすまじさるべき人とみこの関越え

月 とる人もまた経ぬ白河の関のこなたの秋さまばかり 慈鎮
文 春霞たちでまで出ぬれども秋風ぞふく白河の関 能因
一 舟 浦舟 沖津舟 友舟 千舟 百舟 子舟
渡し舟 大舟 川舟 夜舟 芦分舟 から艫舟
漕舟 さし舟 引舟 釣舟 釣舟 難波舟
高瀬舟 ともれ 捨小舟 もろ舟 捨舟 打浦舟
舟様 舟人 まんなか舟 舟長 舟の梶枕
いさり舟 出舟 池の舟

○浪八 丁の声 海 浪の朝なき 深江 海を
左近 郷 浦半の月 池の一点 江方 あり
志賀 山かゝる柴ハ ○泊舟ニハ 蓋く浦なき 海れ
の月 雨 あらき浦八 孫より反松 うゝ生
てこゝなく待ぞく 夜半ノ鐘声ハ雲船ニアリ
一駒 の江駒 いさゝ駒 いさむ駒 なりむ駒
むく駒 駒の江なて 駒なて 江なり駒
なる主駒 あり駒 ゑ知駒

あぬる駒 馬の上 雑しり駒
○越ゑ関路 西花 山石根の道 清あるか
中の山越 向ひ舎り 遥り 狩媒の野路
あるゝ 相坂 佐野の渡 東路
坂の関の岩ゝ山之出るきりゝの駒 高遠
駒 あそいさあてゝ人山の花の家そふ井山の玉河 後成
一驛路ニハ 夕酒 茶松 都をおこふ かりれ
役 一夜来 日数ふる路 江方の浦 玲瓏山

●道 むかへ乃ゆ 下道 岩のかけ人
やとりの道 中道 ゆかりより 紙道 雪のふる
越る山路にハ 雪降 駒 岸のやう 附をふる袖
里を遠き 袖の氣 分れ蘇 やつまし旅とも
来 りの袖 紫人 面ノ 花紅葉成る心
帰る庵の青 志かへ 初瀬
春ハてく山路を雨くと地成ゆとむを見ゆかけさきるさに
一元 西ゆ成分れハ○袖乃ゆりて 草枝 雪の百る

虫撰 草のかしく 小鷹狩 草刈の岸 庵の陰
[illegible]や[illegible]も秋の果そなさこいり[illegible]の事[illegible]らん 通光
[illegible]ゆ[illegible]れ胡[illegible]の袖そ[illegible]けき 秋雪
一 [illegible]ハ○漕舟乃上 志かへ小山越
出し世をおもひ出る さとしく 物の[illegible]
[illegible]ゆ[illegible]園まれ[illegible]に雅 [illegible]
[illegible]の心[illegible]る[illegible]の里そ[illegible]
[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の月そ[illegible]

素石
冬の入日菜畑のあふ子駒とめて花なるにとなへつゝらゝ家成献

山類　並辺　居所

一山　奥山　秋山　冬山　夕山　野山　浦山　外山
端山　さ山　あけ山　深山　卯山　山おとこ
里山　遠山　こ山　さくら山　山中
山のひたひ　山のうけ　山口　○山あや　峯の雲　夕霧
湖峯　山の月　谷　峯もち　紅葉　松　時鳥　枝葉
嵐　猿　杣　杖村　古寺　鐘の音　隠家　猿の声

麻　子規　峰雷　杣人　木こり　山寺　谷　鹿　樵
岩根　磯　浦　尾上　麓　高城
初　春の山里ひとかなしからも人の心のたよりなく　葉ま
夫　よそにも我しぬ入さの山の麓の大伽藍
月　山の瀧川六月のゆきら消えかこそ夜ぞ　寒
一二　山峯　峯越　峯の雲　峯の松　花の峯　峯床
峯の庵　峯つゞき　高根　尾上　嵩　大方は山の付合なるべし
素石　わきまへこゝろ山分衆月やまかあらそ　宗因

[illegible]

一 岡 [illegible] 野中の岡

○田 [illegible] 里 麻 草 [illegible] 秣 [illegible] 荻原 [illegible]

真栄 岩代 [illegible] 野 住吉 明石

[illegible]

一 谷 谷の[illegible] 谷の[illegible] 谷の[illegible] 谷の[illegible]

谷[illegible] 谷[illegible] 谷の[illegible] 谷の[illegible]

○材 山の[illegible] 水 岩根 [illegible] 苺地 [illegible]

[illegible] 世捨人 [illegible] 山[illegible]

[illegible] 月 [illegible] 吉野 [illegible]

[illegible] 国信

一 林麻 林麻の原 林麻の[illegible] 林麻の[illegible]

林麻寺 林麻の里 林麻田 林麻川

○里の[illegible] 鳥人 松原 花 麻 荻 [illegible] 真栄

山 [illegible] 山

あ古 山ことを八字治乃川身之二あてをゐる之あり朔日山ゆ 二夾
凡 野の川岸より為ハ晴塾上もと氏松をの月ゆ事 家行
一坂 一坂 坂越て 坂乃麓 山折 七ゆりの坂のもと
○風来の袖 小篠 体小来こり 泥なぎし駒
岩が孫 松 木葉 山の井 古寺の名 呉橋
木曽路 夜代
あ古 山の入こ坂の名里人に打やさけ云ることにて 家
里者ゆ夜の里乃村ゆ坂ゆ 後代

一畑 山畑 遠山畑 畑の古畑 うれく古畑 片
山畑 畑のやけ山 ○山畑 畑傳心 鳴鳴 麻
獣 来法 庵乃網 伏猪 細道 山石根
又 山畑の園乃古畑あまにやり首や苔氏種と荷久人内大ト 板丸
同 古枝の山のこゆるこ乃ハ来のこそ乃も湖 畑のやけ山 信定
八 一材 波も材 来の材 山峯乃材 谷乃材
畑乃材 ○寺のお 虹 楽しき鶴の音 谷あむ
来法 峯のもと とり 立駒 山住 山川 楊乃上

爪木の原　木霄路　葛城　小倉山

雲ヶ材　遥ニ　[illegible]　[illegible]　大門の山階の事之

施(ヲ古)人の袖ハ人を杖ハ風にて自ら[illegible]き山のかけてし　定家

一九　杣　杣人　杣方　杣ひく　杣山　杣川

○[illegible]入山　[illegible]　[illegible]　[illegible]　槙原　[illegible]山

山川　花　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　尾の山

三輪山　田上山

[illegible]小男[illegible]

[illegible]

一十　瀧　瀧の糸　瀧の[illegible]　瀧の白糸　瀧津瀧

[illegible]瀧津　瀧波浪　瀧浪　山石越滝　滝川

瀧の[illegible]上　石[illegible]瀧　[illegible]

○山石根　庭の[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]上　[illegible]

松[illegible]　材　[illegible]の泡　[illegible]　袖の涙　[illegible]

古寺　吉[illegible]川　布[illegible]山　[illegible]河　[illegible]　捨山

音羽川　[illegible]　雨[illegible]　白河　那智　[illegible]面

嶋 渓路嶋 志かゝ入の浦 住吉入渓

山入 渓にかゝりせり 夜ハじろの浦より日ハ日和と出り船人 衣笠

みちのくに花ハ田のいとりことかゝしきてかり孫瀬きとの浦代 人海

一渓 付嶋 浮洲 灘 渓路 渓辺 渓むさし

渓代 渓傳む 渓ゑ 渓楸

●嶋 八十嶋 百嶋 沖津嶋 嶋山 嶋根 嶋代 嶋注

嶋代 嶋傳む 羅嶋 川嶋 浜万入十嶋 池の中嶋

嶋守 嶋好む 遠嶋

●渓 千渓 沙千渓 渓と年々 遠千渓

●洲 白湯 洲 濱 子りま洲 川洲

●灘 灘入り沙路 灘の沙やき 灘の捨舟

渓ニハ 真砂 松 貝むろふ 田鶴 笘や入る

海士 衛 海松刈 竹寸 蒔入邑 深しき浪

舟流るゝ 浦中入月 遠屋入舟 伊勢代海

雜波 住しの浦

末遠きふ里の渓ニ日ハ暮て秋風送る石代の松 宋遠

○泊舟 芦原 一ノ瀬 衛 汐 海士人 浦の松
芦田鶴 浪ヲ八月 河浪 難波の浦 与謝ノ海
古 年毎ニ紅ニ[illegible]ニ[illegible]河漆や秋の[illegible]人 貫之
又 あ蓋の岡ハ漆の浪 [illegible]
六 汐 ま汐 さす汐 と汐 むかふ汐 汐まゐ
汐やく 月の出汐 夜汐 朝汐 汐みちむ
夕汐 沖は汐 八重ノ汐風 汐わむ [illegible]
[illegible] 引汐 汐風 汐路 汐を [illegible]

汐時 月の入汐 汐そそ [illegible]
○浦風 浪ノ音 松陰ハ [illegible] さつく衛 [illegible]
[illegible]田鶴 [illegible] 泊舟 [illegible] 舟
そよく芦ノ 真砂ノ地 [illegible]
[illegible]ニ[illegible]ニ沖の白洲ニ[illegible] 国信
[illegible]ハ[illegible]ノ[illegible]ニ[illegible]ニ[illegible]ニ捨舟 力家
一十七 浪 付[illegible] [illegible] さく浪 [illegible]
[illegible]浪 [illegible]浪 [illegible]浪 山石波 [illegible]浪

浪 二八〇三 川 汐 沖津風 濱 邊 浦

干潟 芦 舟の 衛 網代 繋舟 泊舟

白雲 尾上 月 山 稲 花の瀧 池 川 海

古 わたつ海のかざしにさせる白妙の浪もてゆへる淡路嶋山 素

続撰 久かたのとこよ[illegible]桂川浪のしがらみ[illegible] 夏之

新古 きみが代の[illegible]秋の夜の月をあらふ沖津白浪 大弐

後 [illegible]川をながめ[illegible] 伊勢

[illegible]の[illegible]越て[illegible] 待乳山[illegible] 清輔

古 高砂 住吉の濱 難波江 沖つ白浪 舟のへ 摂

住吉の[illegible]ぬ人[illegible]

難波[illegible]

月を[illegible]

[illegible]大渡[illegible] 住吉 [illegible]

[illegible]

[illegible]

難波の[illegible]

[illegible]

川浪 川鳴

淵 岩淵 淵乃あり 淵淵 うこ淵

そこしなき淵 あさりく 口ぶの淵 うづまく淵

淵 淺淵 淺淵志ゝ浪 一淵 平淵 かゝら川淵

川淵 淵く乃古くゐ うき淵 泛淵 淵くの井ゐ

夏淵 うづまく淵 滝津瀬 淵乃ゐ 八十淵

淵きり 淵ゐ 淵縁て 遠き淵 渡淵 廣き

川 二六 光 峯根乃浪 柳 竹 橋 淵

子為 さすば本舟 高淵舟 笠 拙本下に

ゆつくゝ 浮雲 なくゝ雲 吉野乃淵

宮居 大井 乃里 初淵 立田

知 宍師川 落くるを 紙ゐまて おゝ今 に波 そむ 笠 基 後

又 池乃 ゆつくゝ 景とたしの淵 ゆつくゝ 鶴

源神 紀康川 八十淵乃波もぬ 伊とを 作 ゐりしとこ 三年 ゐん

二十 一池 池乃汀 庭の池 池の庭 池乃心 水の池 池乃

淵反 池の尾 池の狗反 池の中為 池わきて 池ゆ

○岩根 沙 菖蒲 水なくして 流 荻浪
なと 御池 柳 松 みる 鴛 鴨 蓮 葉 こま
生田 十二月 昆陽野 月さへ 氷の面 又、
渡りの舟の瀬 舟の中 琴 芹川
猿沢 采女かいつきし入朝夕に渇きし船は浪除 美人
池は東京のこと伊勢物語に河原の左大臣
人六條にいとり御池を広くほりて池をさとく花
くみちのく塩竈をうつしてつくれる塩竈と
えま乃おまくてハむしさきのくの塩竈

もとみきりに池ととくなら二流の船をうへて
かゝへし気たやうにそくして琴とを入ておきむ
ましなり
風なる更らるまる波の大きなるんくとほる浪くらへ立て直
まるの池生の入るは池はきく浪各月も広く流を直
一澤 浅澤 澤の 澤をさ 野澤
○浮草 菅の葉 葦 鴨 孫芹 鴫 水鶏
田蛙 田鶴鳴 沙 細き流 みる 野
ちひさき庵 雪とまりの 舟 泥

奈 夏野 伏人

真蒲刈 沼の沢の[illegible] 貫之

沢 [illegible]

一沼 沼の 古沼 かくれぬ [illegible]

○真蒲 [illegible] 菅 五月 [illegible] 菖蒲 蛍

田 蛙 [illegible] いりや 浅香山

小夜中 [illegible] 御[illegible]

一井 山の井 玉の井 石井 岩井 [illegible]

井 角井 古井 寺井 井の[illegible] [illegible]井 [illegible]井

○山沼の竜 谷の戸 行 寺の[illegible] 古沼 [illegible]

蛙 田 [illegible] 相の[illegible] 菅 [illegible] 忘賀

[illegible] 貫之

[illegible] 定宮

堤 堤崩て 塘くれ 堤の[illegible] 畑きつみ

○川 池 柳 竹 川[illegible]の里 船[illegible] 菅

[illegible] 田鶴 [illegible] 人目 [illegible]

猿人の袖ゆき[illegible]松風[illegible]月淋しき山のうけ[illegible]
山杉宇の光やうたる人細谷川の[illegible]
一樋 うけ樋 竹のうれ樋 竹のうけ樋 苺の下樋
○谷のうけ 山里 田 杉 古寺 松うけ[illegible]
山のうけ 山母 相坂山 走井
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
一代 代[illegible] 代の[illegible] 代の座
下[illegible]代 ○山川 崩[illegible] 澁津[illegible] 殿作
浪の[illegible] 都 大井川 [illegible]
松[illegible]の松山川[illegible]
代土の小川[illegible]
[illegible]雛[illegible]代土の座の夜[illegible]
井関 井[illegible] 井関の[illegible] 井関く

つるゝ 関の古人井 ○柳 川の柳 浪の白玉
五月雨の浪 岩根 鴨 聳 あらく岩根
[illegible]
三十
一殿 この殿 殿作 殿の門 東殿 高殿
ほとゝ殿 唐殿 瀧殿 滝の殿 [illegible]
○あらく斬 [illegible] 四町の門 花 庭の池 [illegible]
[illegible]の声 [illegible] 袖 玉垣 出入 主儲 作く [illegible]
[illegible]

三十一
一樓 樓の上 高樓 ○扇 [illegible] 月 [illegible]
笛の音 落る涙浪 山くの [illegible] 山の遠山 [illegible]
[illegible] 舟 南の風 [illegible]
[illegible]
三十二
一宿 付家 この宿 [illegible] 茅生の宿 住宿
津の宿 宿の遊 宿の主 荒たる宿 宿の板屋
宿り [illegible] 宿 花の宿 月の宿 宿る
●家 妹の家 家居 小家 荒たる家 [illegible]

三十三 已南へきまつの丸やはあままはりやまとしをとれ郡人の月の紀家伝

六十六 感ゆかし人物かたらやへ下さて烟下しさしけく 長谷

三十四 一芦の屋ハ 付芦の茨 芦のやへ茨 ●浦 海士人 もしほたて

蛍 そしほの烟 そしほたて 稲葉寺 難波

文 難波人あし火たく屋はさけれとへかまつとも屋かつて人也

三十五 一庵 賤の庵 柴の庵 草の庵 山下の庵 谷の庵

柴の庵 山陰の菴 杉の下庵 下庵 他進 四十人の庵

りりか 庵志むか 庵さん 小田の庵 松の庵

杉の庵 藤の菴 もとの庵 葛山けり菴 一庵

○田中の道 思人の里 柴の烟 蚊の声 山住

世を捨人 雨中 敷 杉の呉行 須ゆ 衣掛

杉 青 草の庵 ゆかる雨に涙なる今 山附 後成

五月雨に草の庵ハ杉まてと蛍となるあらわりりける 辺房

三十六 一軒 杉の下 杉の葉 杉の葉 杉の山

うやゝ杉し ○あやふく庵 弁面 とほそ乃 古

砌の梅 忘の行 箔 花の宿 松風 葛

一宝九 松の宝 松生の宝 宝ゝ山き 宝の緑 宝ゝ川の
そし明の宝 宝の門 宝源き 宝さして 若の宝
小宝 南宝○学び 月を待 笠 いさ村竹 松
松の下露 雪 灯 杉の衣 箔 飛 深し 朝日
花の雪 高梯(タカドノ) 宝梅 水面ハ雪封ス寒シ
露重ツ 窓ニ 縁竹 但(タヾリ)
一床(トコ) 中ハ夜ニ 朝床 床の上 むかしき床 夜床
ゆゑ床 塵ゝ床 床のうさう 塵つむ床

むの床 中の床 ○うさ 拂 むとり 孫
家のさむしろ 物おもふ事 伏猪 鶏 雉子
月 源ゝ川琴 月光と我の声 網代
山城のすき 瘴の下さて みゝ来ゝなりとさて 上東門院 紀
一里(四十二) 山里 古ゝ里 古里 里のさゝむ 幾里
里ゝ 一村の里 一里 野口の里 里人
花なき里 花の里 源山の里 河上の住里
和山の里 この里 山陰の里 山中の里

むすむの里　千里　人古千里

○塩ほの梅　呉竹　紫の烟　笑　綾の川田

焼火　淋しき松風　春葉　鐘の音　朝市

彩の多の青　道の性来　思へ　衣持　吉野

三輪　生田　春日　布留

古　いさこの森よりの高宮今もかゝや伏見の里の和泉の国の古　よし人家

夫　淀川の谷の岸の松かけ淀の舟にすむ里の子　家隆

四十二

一塩　玉塩　小柴塩　袖の塩　紫の袖塩　竹わめる塩

一ま塩　松塩　方塩　竹の塩　芦の中垣　もしほ塩孫

塩が　笑の才塩　わら塩　ませ塩　ませ　霜の末塩

塩門　よしき新ま塩　妹り塩孫　塩あらむ　塩根の

塩こむる　かこふ　芦の谷塩

○植垂花　菊の庭　清くうつら　極子　槿　葛の葉

呉竹　苗代の　卜田の居　家居　宿　里のめくり

絶し通路　穿の色　これ前てこうし　神の御　夷々　蝶

彩古　雨を洞籬の菊のもむのまに五まりふるこハ山の天の月文内々

むとしその色のりとれ呉竹と秋のよなくなりやしぬらん基後
主
書こゝろは文居をし世の諸なまや八重にまゝ心の八重垣 不変
初六
くつまそふやふすついちの犬をしまふまへ和となき家ゆゑ信実
四十三
一屋 玉箱 とろむ箱 いよ箱 釣屋の心刀 芦箱
釣屋のすきかけ 釣屋の追風 釣屋の袖口
まくさ人の色也 ○みる花 宿 宗 奥麻き国
称る月 声雪厂 鞠の場 琴の音 見焼
天のうら 竹の柳 小車 庭の朝年 雪晴九

車の内 もりりほう 香炉ノ峯ノ雪ハ板屋ヲ着ル
伊勢物
此風家ゆゑとなさは玉屋の刀をとめつゝ入屋さしを 菊栗
初六
年とへて世にまさけるいよすゝれりをさけられて男を 先後 抱てき
四十四
一庭 付砌 庭の面 庭とせ 玉の庭 玉数庭
庭車 庭さつこ 取もりほの たまりあつこ 玉の砌 菊の庭
砌の外へ 菊の庭 君の庭 ○花 紅葉 松柳
菊 萩 宿 色 池の 真砂 鞠 多武色 胡蝶
寺 初雪 霧霜 九重 猶居の袖 虫の音

新古 庭の雪ふりつゝ絶つをそ出つ是とこそ風なりと人やうらん意同

史 紫の庭の青風ゆふまてむはかすめりやこのうへかなは京極

なれ 五月雨のをやむなしきをみなれ庭にこの敷まさりつゝ数元

四十五 一 外面 二寸の外面 外面の悪

○砌 花のかけ 頃ゆ あつち 宿 出の声

荻 蒲 梅 柳 竹

凡 山黒悼ひもの声秋かけて外面の相の下黒落之 定家

玉 五月雨いさゝ小川をたなりまて外面の小田をみをは遠なり 実家

植物 生類

一 松 松原 村松 苅松 姫松 松の村立 一松

山松 うなぎ松 岩根の松 松のくれ根 松の下立

松の生木 松の落葉 松のこさか 松の姫 老木松

松のもとむ枝 松の子年 二葉の松 浦松 松の齢

○紅葉 葉子み 竹風 花さそ風 海地 雪の泉

鶉 祢くらの路 鐘 古寺 鶯かつら 古塚

海人 山類居所ホ 付合なり 小倉山 住吉 高砂 唐濱 みや

入浦　みのゝ小山　武隈
新古　さゝいきの松のしまさをまてゝ扇の風を忘れめや　枇杷皇太后宮
後撰　塩風はみなくちのとは語るとも浦さびしくも住吉の松　公実
新古　おもひきやみのかみ山の一松をちぎりし事はいつとはなれど　伊勢
千　千早振ふるさとの人の目摘川松ちとせをちぎりをはらむじき　おほ坂太后
拾　おほつくみいさちのまさらんわくら風松まち月をまちて　忠仲
二　一杉　杉村　神杉　杉の村里　杉立る庭　杉の穴　杉万
杉の木蔭　杉の梢　杉の一本　杉の道　杉風渡る　初杉

○湖高　夜山　社　神垣　岸　花の宮　秦むし島
関路　杉　槙　杉原　三輪　天の香久山　相坂
布留　泊瀬　横川　山田の原　足柄
新古　年経ぬる来のむら雨に嵐をいかでむ関の杉むら　宮内卿
月　きりぬとぞ夜と世をいづる山の杉の村立　初月
千　ふる盤あり三上山の杉村や八百万代の代のかみ　重経
丈　よかはきく涙をそへてきみ横川の羽の杉の下路　内家
三　一槙　槙のゝ　槙立山　槙立杣　槙の戸　槙の木

槙の古木 杉のふけ山 杉むら
○奥山 青ノ 村雨 時雨 秋ノ夕 杉村 杉原
古寺 鹿の行 宮ノ戸 鐘の音 苺地 花
紅葉 高雄ノ青 淋しき心 吉野山 松山 夕尾山
常盤山 高野山 志りき山 常陸 祢ざめり 浅
新古 村雨の露もまだひぬ槙の葉に霧立のぼる秋の夕暮 寂蓮
新 槙のとをたゝくはたそとしらねども吹けて鳴る風 定仲
同 杉たてる雲深き山は志るしも嵐吹きの松山深き谷 定家

新古 あはれのなま山はまだ杉の葉も見えてわたる人の見えつけるらん 人丸
月清 なかりの八雲かゝるむかへの杉も山の峯に月の出る 信盛
四 一杉原 山石根のむろ 檜原こえ 檜原の奥 杉つゝ
かくれ 杉原のさら ○古寺 夕日 暮ゆく月
山峯 花雲 鹿の音 茅萱 鐘 時雨 松山
杉 杉 松 三輪 初瀬 尾山
新古 我庵は三輪の山もと恋しくはとぶらひ来ませ杉たてる門 読人知らず
同 まきもくの杉あらはれて見ゆる人小松の雲は泡も見えて 家隆

鉄子 今そきくくるしき物と山ほとゝきす奥の入あひのかね 宗祇

五
一楢柏 ならの葉 ならの廣葉 ならの下葉
ならの落葉 ならの広葉 ならの葉柏 ならの柏木
楢柴 廣柏 青柏 柏木 葉広柏 わか柏 柄の樹
○ならの河岸 喪 嵐 山本 楚 森 宮居
涼しき軒に 神山 榊 社 さほ山
新古 冬されはならの葉そよき風さむしまさに秋なき神なひの杜 従三位季下
同 風の上に吹しをりて むらの西まち ひろ柏子 雲霞隠 能因

深山路の岩根につたふかたをかの ままきむ柏に雨宿
千 難波江のあしのはわけて むかし柏わかれて人を恋めや 源俊頼
源氏 此むかし柏は石のあたし おもむれわらはの柏をそ見ん沈むをうらみに涙さへかり 小野
これも石の事とみえたり

六
一森 森の梢 森の一村 森の遠方 手森の下草
森の下道 森かくれ 森の木の戸
○花 紅葉 白卯木 柏木 山本 鶯 ほとゝきす
神社 嵐 涼しき影 子規 蝉の声 蜩 雪

風 霜 附雨 草刈 秣飼 月 かる柴人
片岡 生田 三竹芝山 いなさ山
古 大あらきの森の下草おいぬれは駒もすさめすかる人もなし よみ人しらす
夫 山姫のちえの錦を織そへて岩田の森は神さひにけり 信明
一七 一草 小草 村草 草ふかし 下草 草しけみ 八ふ草
一百草 草かや生 草深き 木の下草 村草
谷かけの草 草わけ露 草の原 草かくれ
草枯 田草 わか草 草村 芝草 三馬草

ま草 庭草 草深き ○野 卯の花 田面 深み
夏草 木のけ 園 古跡 園
古 春日野の雪まをわけて生出くる草のはつかに見えし君はも 忠岑
新古 夏草は茂りにけりな玉鉾の道行人もむすふはかりに 元真
八 苔 苔のとこ 苔の上 苔地 苔の下の 苔莚
むす 苔の下 苔深き 苔むす 苔乱 苔莚
山石根 岩ね 松の下 古寺の石 埋木 古き松
花の朽木 木の葉 いはほ 谷の戸 古家

一藻 仲津藻 玉を 乱を おまき藻 おまの刈を
深を 藻くれ 玉藻の流く 仲の藻屑 藻刈舟
藻くれ 袖 浪のよると 藻のむ夜と
○浦 浪へ 浪 真砂 池の 蛍
柳 浪 綾(ウロクヅ) 芦のや みるふさ
みさこゆる浪の玉砂のうちわきに浪深入てよろとくれ 光俊
むとのよろ 網代にかゝる流とのしりしまるとはこれやさんの家
一芦 わ 称えふ 芦の葉 芦の みりき芦

芦原 芦のふる根 芦の滋と 乱芦 あかき芦
芦へ みかき芦 村芦 かる芦 芦へく 芦の中にうさ やうの如なとのあり
○入口 沼の 沢の 蛍 かとめ 略 一
こまや 御 深田 柳 真砂の人 舟 菱
みるふさ とくれ 羅波 沖の川 田鶴 鴨
ワの浦に塩満くれ分こと浪わしをさして鶴鳴ひろ 赤人
芦の漕棚あり 小舟あさこむり帰るこ人知命なと
あちれとむすさの入口の芦の葉にみとりはしらぬ冬八年の家なり

一 竹　川竹　呉竹　村竹　谷乃呉竹　なよ竹

ちいろの竹　竹乃涼根　竹の根さし　竹乃さ枝

竹の下山　竹乃畑　わかしく竹原　竹のおふ傍む

竹のふかき　竹の林　竹の下庵　竹見　竹のかれ

○川辺　川岸　里　堤　田畠　橋　その畑　社の森

麦乃畑　雀　土もく　堤か　蚊乃声　霞　雪　霧

忘れし　砌　花　槿　菖　伏见人の里　深草山

竹 いかに人の世乃賢き人なれ竹をみて年とるよう　其芙

竹 鶯の孫くらにむしろ竹のいつまでの枝かは　よるよる人　郭仲

日 夜をこめて鳴鶯の声きけバうれしく竹を入てけるかな　基俊

中殿ニ灯ノ残ル竹ノ裏ノ音

十三 鳥こまやこらの夕暮の竹のそにおまろかれハこゝろ日も遠　家隆

十九 一 藪　やつしかくれ　藪原　藪けぬ

○里　村　草の庵　賤か住家　雀　かやり火　物

るのやとり　雪　霜　うすき日　古跡　寝

小隠ハ隠ル陵藪ニ　大隠ハ隠ル朝市ニ

一千 小田乃畔　田中の畔　山田乃畔

○霜　麻乃外ニ　雲　雀　村薄　秋風

あきる山田の畔乃村薄刈人なしよのこる法れ　慈円

一十一 鷺　白鷺　鷺のこ乃こうなも　鷺　鷺

鷺乃声　鷺鳴く　おめく鷺　鷺の村鷺　村鷺

○洲　渡乃松　入江　声辺　沼川　源田　東　池

柳　鶴　よこさふ舟　林　池の汀　流の末に月ぬる

田の作業にまゐる　加茂の河原　一刀木（ユルギ）乃森

鷺の池乃汀に松かりて　都乃和の心ちこそとれ　定家

鷺の池乃芦田の畔に橋ゆきも　ゆきの数やハ鶴　秋仲

夫　鮎の子にきれ岩るにゆく　鷺の心のもしこそ　かとの川を　麻苗

二十一 鶴　夜乃鶴　友鶴　芦田鶴　田鶴乃読こゑ

むな鶴　田鶴かける　鶴田鶴　田鶴か声　ゑ井

乃鶴　子をおとふ田鶴　田鶴もむとり　まよむ

かくし鳴鶴　田鶴さハ小鳴　さハ人多ノ　鳴ゆく

○芦辺　漆田　田面　松原　ゑ川沙　ゑ井

稿 真砂地 厂 誉 以飯浦 山際 仙人
古き都 住吉 和田浦 入江に日のさし
丁沼の岡 洲 嫁の松 河洲のぬる 田蓑の橋
大浦 堀ニ 遥に鳴る川の独あるふも安ふ山して
十三 田蓑の鳴みとのあら田の稀の雲に一村落一夜宿りを家落
碧落 無ッ雲 猶ニ 鶴心ニ
才三才四法ハ冷々夜鶴憶テ子ヲ竜中ニ鳴ク
文 さよ大くるまもの遥かうさて乃志くへにかりこのうちの鳴 太山院

十三 一鶴 友鶴 孫て此鶴 夕鶴 胡鶴 村鶴 夜鶴
月夜鶴 やとめ鶴 山鶴 うらまし鶴 さらかうさ
狩場にハ鶴の左ハ康の みむまし鳥 いなりの 狂こ
いとゝ相こトなし
○神社 多井 霜 沈月 東 山寺 江の丸
亀の行 市 堤 松村 山際 夕殺を奪
日暮テ江菊ヨリ与ハ江水ヲ 密鶴 龍尾テ 悠く
大ゐ川 井抗にきゐる山から寸鶴のまゝ孫をこも 魚ハ泥し方 二鶴

夜をこめて多賀の森ハとゝかるゝも世にあふ坂の関ハゆるさ[illegible]
[illegible]
さゝくしの[illegible]ぬるや八声[illegible]
[illegible]
二十九
一雀　雀の声　[illegible]　雀　村雀　かくとゝかるすゝめ
いな雀　雀[illegible]　○呉竹　稲葉　蔵士塩
門田　小家の[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]羽田　苗代
[illegible]

二十
一神　[illegible]　[illegible]　[illegible]
神[illegible]　○田中の[illegible]　[illegible]　[illegible]
呉竹　蔵原　山里　[illegible]
[illegible]
三十
一鼯　梢[illegible]　鼯の声　[illegible]
○松　[illegible]　[illegible]　[illegible]入山
森　伏見山　高岡の山　飢鼯性（サイ）　[illegible]
[illegible]

牛　野なる牛　牛の子　小牛
牛の車　作る人牛　ある牛　牛の子　男の子
四つ人のる車　あげまき　田中牛麿を　耳次山
仲麿公　仲麿の乳母人牛牛　牛をもてきたる　牛の子
牛あと　牛の子　牛をつれて山門まで　牛をつれてくる
三五二
一牌　牛の餅　かきもち　いり牛
○るや　谷の戸　篠の戸　表の戸
義　吉松　名馬の名　山

三五三
一猫　猫の尾よりきたるや　猫の尾
三五四
一虎　虎の皮　虎の子　虎の爪　虎の牙
三五五
一鮭　鮭の住む川　鮭の子　鮭の皮
三五六
一鯉　鯉の住む池　鯉の子　鯉の皮
三五七
一鯨　鯨の住む海　鯨の子　鯨の皮
三五八
一鼠　鼠の住む穴　鼠の子　鼠の皮
三五九
一蛇　蛇の住む野　蛇の子　蛇の皮
三六〇
一蛙　蛙の住む池　蛙の子　蛙の皮
三六一
一蝶　蝶の住む花　蝶の子　蝶の羽
三六二
一蜂　蜂の住む山　蜂の子　蜂の巣
三六三
一蜘蛛　蜘蛛の住む家　蜘蛛の子　蜘蛛の巣
三六四
一蟻　蟻の住む穴　蟻の子　蟻の巣
三六五
一蚊　蚊の住む家　蚊の子　蚊の声
三六六
一蠅　蠅の住む家　蠅の子　蠅の声
三六七
一蛍　蛍の住む家　蛍の子　蛍の光
三六八
一蟬　蟬の住む木　蟬の子　蟬の声
三六九
一蜻蛉　蜻蛉の住む家　蜻蛉の子　蜻蛉の羽
三七〇
一蚯蚓　蚯蚓の住む穴　蚯蚓の子　蚯蚓の声
三七一
一蛸　蛸の住む海　蛸の子　蛸の皮
三七二
一蛤　蛤の住む海　蛤の子　蛤の皮
三七三
一蜆　蜆の住む川　蜆の子　蜆の皮
三七四
一鰹　鰹の住む海　鰹の子　鰹の皮
三七五
一鰯　鰯の住む海　鰯の子　鰯の皮
三七六
一鯛　鯛の住む海　鯛の子　鯛の皮
三七七
一鰒　鰒の住む海　鰒の子　鰒の皮
三七八
一鰐　鰐の住む海　鰐の子　鰐の皮
三七九
一鰌　鰌の住む川　鰌の子　鰌の皮
三八〇
一鰻　鰻の住む川　鰻の子　鰻の皮
三八一
一鱈　鱈の住む海　鱈の子　鱈の皮
三八二
一鮫　鮫の住む海　鮫の子　鮫の皮
三八三
一鰹節　鰹節の住む家　鰹節の子　鰹節の皮
三八四
一鰹節　鰹節の住む家　鰹節の子　鰹節の皮

○奥山　岩ね　杉垣　木葉さく奥　岩や　谷陰
古木のうつろや木　かつら
新古
白雲の流るゝ奥や栖まで太山の麓を見ぬ道　由哉
月
人冬春夏秋の野べのはて遊ぶやう矢をはなつ　知哉　宗鑑
三十五
一狐　きつね　野干　老狐　古狐　若狐　小狐
昼狐　塚をまもれ狐　狐蔵　蘭菊　叢
○古塚　草村　古社　堂　蓬生宿
蓬生の巻にもとよりあれたる宿の狐のすみか　ゆかり

秋の夕消る音も秋しや塚まもる狐のなくらん　宗蓮
三十六
一兎　かけふ兎　白うさぎ　○岩洞　古畑の石
岩穴　庭　草村　茎てる垣根　古杭
荘子
得兎守株
柔
まろみより月の夫れ白うさぎ
もえ出る秋もりくれなく　宗祇
三十七
一猫　猫の声　唐猫　のらねこ　うかれ猫
猫の子　○鞠の庭　みすの内　御所のすきけ
かつら　真葛原　手飼の虎　源氏の巻
我なくは人のたちのよる蝶々何と云ふ猫の夜鳴

是ハ柏木宮ニ猫の事也
又 真葛原下ゟむかふ待に猿を見つけてきこえし妹恋の思
三十九 一猿 猿さけふ 猿の啼 夜猿 ともよ猿 ましら
木の上猿 ○深山 木深き谷 峯の庵 岩
月 山寺 淋しき 木の間 夜寒 底を涙 山家秋
雨夜 彼らは夜出ものの 山里 木の葉 谷の戸 栃
四十 紫栗 秋山 谷ある 栃雲斜 蹐波猿ノ声ヲ一
猿も木よりおちる事も有 猿山のむかふ谷の大声なりこそ

四十一 生先の付林の花は未も待ちしぬ木の上猿や啼
夕附日さすや花の山影むかふしらふに登る 仲犬
四十二 一犬 犬の啼 里の犬 村犬 つなき犬 とかむる犬
宿守犬 犬の声 里ちかき犬 犬かひの主
○里の中道 くらき坂 無人通路 宇治の里
竹より奥 桃さく谷 守ル家ヲ一犬ハ追テ人ニ吠ユ
まかきへハとかむる犬の声絶てくるとこころに杖つきなき
兵つかて宇治入かよひもふる里わたる犬の声
きらめると浮舟の巻よみそら

雁 ○雁鴨 ○雁渡る ○雁来る ○雁来紅 ○雁来花 ○雁来月 ○雁来風 ○雁来峰 ○雁来山 ○雁来雨 ○雁来雲 ○雁来音 ○雁来声 ○雁来空 ○雁来天 ○雁来日 ○雁来夜 ○雁来夕 ○雁来朝 ○雁来暁 ○雁来霜 ○雁来露 ○雁来雪 ○雁来月夜 ○雁来夕月 ○雁来朝月 ○雁来暁月 ○雁来霜月 ○雁来露月 ○雁来雪月 ○雁来夕雨 ○雁来朝雨 ○雁来暁雨 ○雁来霜雨 ○雁来露雨 ○雁来雪雨 ○雁来夕雲 ○雁来朝雲 ○雁来暁雲 ○雁来霜雲 ○雁来露雲 ○雁来雪雲 ○雁来夕風 ○雁来朝風 ○雁来暁風 ○雁来霜風 ○雁来露風 ○雁来雪風 ○雁来夕霜 ○雁来朝霜 ○雁来暁霜 ○雁来露霜 ○雁来雪霜 ○雁来夕露 ○雁来朝露 ○雁来暁露 ○雁来霜露 ○雁来雪露 ○雁来夕雪 ○雁来朝雪 ○雁来暁雪 ○雁来霜雪 ○雁来露雪

雁 ○雁鴨 ○雁渡る ○雁来る ○雁来紅 ○雁来花 ○雁来月 ○雁来風 ○雁来峰 ○雁来山 ○雁来雨 ○雁来雲 ○雁来音 ○雁来声 ○雁来空 ○雁来天 ○雁来日 ○雁来夜 ○雁来夕 ○雁来朝 ○雁来暁 ○雁来霜 ○雁来露 ○雁来雪 ○雁来月夜 ○雁来夕月 ○雁来朝月 ○雁来暁月 ○雁来霜月 ○雁来露月 ○雁来雪月 ○雁来夕雨 ○雁来朝雨 ○雁来暁雨 ○雁来霜雨 ○雁来露雨 ○雁来雪雨 ○雁来夕雲 ○雁来朝雲 ○雁来暁雲 ○雁来霜雲 ○雁来露雲 ○雁来雪雲 ○雁来夕風 ○雁来朝風 ○雁来暁風 ○雁来霜風 ○雁来露風 ○雁来雪風 ○雁来夕霜 ○雁来朝霜 ○雁来暁霜 ○雁来露霜 ○雁来雪霜 ○雁来夕露 ○雁来朝露 ○雁来暁露 ○雁来霜露 ○雁来雪露 ○雁来夕雪 ○雁来朝雪 ○雁来暁雪 ○雁来霜雪 ○雁来露雪

雁 ○雁鴨 ○雁渡る ○雁来る ○雁来紅 ○雁来花 ○雁来月 ○雁来風 ○雁来峰 ○雁来山 ○雁来雨 ○雁来雲 ○雁来音 ○雁来声 ○雁来空 ○雁来天 ○雁来日 ○雁来夜 ○雁来夕 ○雁来朝 ○雁来暁 ○雁来霜 ○雁来露 ○雁来雪 ○雁来月夜 ○雁来夕月 ○雁来朝月 ○雁来暁月 ○雁来霜月 ○雁来露月 ○雁来雪月 ○雁来夕雨 ○雁来朝雨 ○雁来暁雨 ○雁来霜雨 ○雁来露雨 ○雁来雪雨 ○雁来夕雲 ○雁来朝雲 ○雁来暁雲 ○雁来霜雲 ○雁来露雲 ○雁来雪雲 ○雁来夕風 ○雁来朝風 ○雁来暁風 ○雁来霜風 ○雁来露風 ○雁来雪風 ○雁来夕霜 ○雁来朝霜 ○雁来暁霜 ○雁来露霜 ○雁来雪霜 ○雁来夕露 ○雁来朝露 ○雁来暁露 ○雁来霜露 ○雁来雪露 ○雁来夕雪 ○雁来朝雪 ○雁来暁雪 ○雁来霜雪 ○雁来露雪

金匣二尺ヶ浦の貝さけと荷絵にみゆる松の村立 浦弘
和いとゆかしきたれ花にまかり人住の江の岸によるさゝふ立三貝 知人

イ 雜部

一日 付空天 朝日 朝附日 夕日 夕附日 昔日
さ日 朝 入日 暨日 あり稼さ寸日 春の日 夜の日
秋の日 冬の日 夜の月 朝日 月しろ日 昔る日
天作之日 あり成日 見る日 日の光 秋の日
●夕のうみ 九夕 大夕 あ春の夕 みたれ夕

中夕 むかしき夕 土の氣夕 夕夕 吹風の夕 夕氣
青き夕 冬ゝ氣夕 うゝんの夕 四方氣夕 遠方の夕
夜の夕 冬の夕 都の夕 九重氣夕 沖津夕 あかし氣夕
●天 天地 天ヶ下 天津夕 天原 天ゝ夕 天の戸
○日ニハ 長閑 うゝ雅ゝり 山 雪まれ夕 夕
夜百 新 岸 夕 朝 夕
凡 ふく立家のうちにかのめきて朝日こもれ家去の山の人大安 九重左
月清 いみ 夜もりくや八人のまゝむかし人 まこ三ゝぬ去のゝ氣夕 夜 夜

十 あかつちのきのとしてあれ代なれたや白の村の稲をこそつゐ 能忠
松 声たかく三笠の山をよのふなる天のトこそたのかしし 仲義
羽古 天の戸を押ぬかくれやうなり神代の月の軌をみ 松殿 ある 夜
二 一星 天津星 星の光 星のかけ あり星 星月 夜
夕しく 大白星のりし 星の林 星の位 百友の 半し
○夏 暁 雲の夕 水の夏 夕 水の夏 春の夕
春 舟路 蛍 窓の柳 菊葉 晴 五月夜
さとり 立去 暁 春夜 河夜 神楽 焼る

古 冬の夜の上をてらす菊は天津星かとあやまられける 鈴行
坂 玉河の川辺に立て白菊を見て人星とおもひけるに 基俊
伊勢物語 はるゝ夜の星の河人の星とも紛ひて夜の星の光 葉事
千 さ月やこさ小雲にとも夜火はきのたゝ星とそみる 飛雲
三 一朝 付明 朝戸出 朝行 朝宇 朝まくさ
朝ありし 朝ありき 朝あく けさの朝なき
明日 明方 明るる 明渡る 明果く 明園
あさ六 初雪 見けり 夕 夏晴 舟出して

泊舟 行人 旅人の 独旅 客の風
夜をすがら音信みづからやうく旅の思ひ 馬の衛
一雨 雨そゝぐ よこぎる雨 夕の雨 朝の雨
雨夜 雨の夕 三月の雨 急ぎの雨 雨そゝぎ
村雨 雨宿 雨くらき 小雨 むらさき雨
○浮世し 月くらき 名所に 家 雨山あり
浮き風 旅の中宿 小家 落葉 蛙 虫
舟の浦る 旅人の帰る きのふきょう 因みに[illegible]

唐土の竜 流れく 空はく 河内のまた [illegible]
雨の音は後ろやうろうて[illegible]ちめぐれ [illegible]
よむ舟に蛙の鳴声 雨にはあらそ鳴き雨はふりぬと
見は[illegible]の雨の蛙に[illegible]よそへてまゐる
旅をみ風[illegible]ときてよりと知りてはまゐの[illegible]そ家に近江
見は[illegible]の[illegible]の雨の[illegible]伊勢物語に[illegible]
やよひの朔日雨そほふるに申しけるとあり
庵山の雨夜 つれづれ庵の中

滝 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

月のかすり [illegible]

大法 [illegible] 如急雨 小法切々メ 如私語

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一雲 [illegible]

[illegible]

[illegible]

○雨 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
山猿[illegible]
山遠 雲 埋 行客ノ跡 [illegible]
竹 浦 湘浦ノ雲 凝 [illegible] 之蹤
八
一烟 [illegible] 烟 [illegible] 烟 焼火の烟 里の煙
[illegible] 烟 [illegible] 烟 [illegible] 烟
[illegible] 烟 [illegible] 烟 [illegible] 烟
[illegible] 住 [illegible] 小家 海上の住家

[illegible] 行の人 塩汲人 [illegible] 松原 川 [illegible]
柳 胸の[illegible] 笛 [illegible] 宮の八烟 炭竈
[illegible] 里の[illegible] 里の[illegible] 呉竹
[illegible] 炭竈の[illegible] [illegible] 住房
[illegible] 人の[illegible] 某平
[illegible] 川 [illegible] 和竹
[illegible] 人[illegible] 恋の烟 [illegible] 後成
柳 [illegible] 和烟 入酒中 松柳 竹 [illegible] 烟

日 天津風そらかすむちはそちよし安のすうこしりしそかん 青

十 一鳴神 鳴神の青 神なりさかく そらにしし鳴神

さゐえしりし鳴神 ○浮世 夕立 さすらへし人

新の古塚 須戸の浦 志かいき山 おとよ人をいさまし

於 鳴神の青ふりきく 巻向の根りし山をくふみつらか 人

新古 白ぬり何そと人のこれ 付家にこうへて消なましぬと 葉

伊勢物語ニ業平 人をいさなむすかはいみしう神なり

さりきてなもいとうしかりけりとあり

古 天のかくしかしこうしかしこ鳴りとしかりに中とハさくるゆかく 上人

後拾於 鳴神の青と香ふしうきのか山とめる夕立の雲 雲聖

十一 一虹 虹川 虹の一筋 立虹 立虹川 みじ

○雨の後 夕の雲 山の雲 入日 海つら 川上

あしの徳 凡雅 虹の川 蘆の枝ハ雲消て 雲なりとる夕立のそら 後西法師

夫 更よまくそり 鳴けり 鳴けり 鳴けり 鳴けり 鳴けり 鳴けり 鳴けり 鳴けり

十二 一天彦 二八〇時雨 瀧浪 谷の源き 立げきの奥

羽 あ月むこのこうふる山の時雨 一声なけそ二ふきく 鳴田

十三 一鐘 か祢の雨 鐘の入る 鐘ひく 文明法鳴く

曉の鐘 ○遠山寺 淋しき心 尾上 行む 曉
松原の奥 うき別 まつかゝ 稲葉 昔日 [illegible]
おむ 泊舟 拾さん 奪 清人浮 雞波 初瀬山
さ砂 志賀 三井ノ鐘 宇治 明石岡 空蟬 あく心ニ
山寺の春々 [illegible] 入 [illegible] 鐘 [illegible]
曉とつもの枕とそゝそゝ [illegible] 鐘の色哉 後成
高砂の尾上の鐘の音 曉かけて [illegible] 遠房
遺見寺鐘 敲 [illegible] 聽 ○夜半ノ鐘声到客船ニ

一田 山田 小山田 荒小田 遠山田 漆田 門田 門のお田
千代田 田中の井戸 田井 田部 冬田 行山のまそ八田
荒田 [illegible]田 深田 山石のえさ田 田面の畔 作 捨田
田長 田子 ○五月雨 柳 竹 [illegible] 山石 薄
茨 [illegible] 山陰の里 村 菴 [illegible] 行 [illegible]
莧 [illegible] 鴫 麻 沢 柴橋
稲妻の光の月 [illegible] 山田 [illegible] 遠房
十五 一野 春野 夜里 秋の里 冬里 山のかげ里

拈四之 小野 すゝ野 末の野 野とち 遠の野人
野とり 野原 野沢 野中 廣野 おゝ野 野篠
○草 菫 駒ゐ山 虫 清水 沢水 狩場 穿
萩薄 秋風 茅花 蘼 野人 小杠原 雲雀 茅原
布袋 小倉里 春日里 嵯峨 三笠
四 野をあるきて人をみかけ逃るもいや 遍昭
又 夜ふけ雨のさめぬるこの宮人の見もれ月の下にまくらかな 玄蕃
十六 一市 朝市 市人 にぎる市 市のにぎわい 市の陽

立市 市女 ○柴人 薪里 砂漠 賣くる人の門
さし舟 車 鞆 三輪 餞ヶ 住吉 安部 野宝
袖さきに駒ゐとゝめ 大隈ヶ朝市
秋夏
くれぬ前に小舟を立こゞめ
辻中入市のかりの宿まで 独殘りぬ夕暮の雲
十七 一山石 付石 岩根 山岩 岩や 宝る岩 岩ゐ
岩ゐとむ 岩乃洞 岩ゐくさ海 岩枕 岩傳
岩ゐくれ 岩ゐまれ

●石 [illegible] 石名 石壱 沖の石

○いえ二ハ 松 苺 山の井 材 池の 紅葉 麦

古寺の名 極子 清の 庭 滝川 鶴 谷の

礒人 蒼田 旅祢の名 吉野山 三日山 戸 [illegible]川

於 君の代を天の羽衣まれにきて[illegible]

ま 天を[illegible]河辺の名の[illegible]君ハ[illegible]

十八 一真砂 吉砂の上 真砂の道 浜の[illegible]

○[illegible] 芦鶴 松原 [illegible] 芦の[illegible] 浜

[illegible]川かく袖 庭 砌 神の[illegible] 御 [illegible]

[illegible] 百[illegible] 于浮の[illegible]

古序 [illegible]

十九 一柴 付 薪 木 [illegible] 山柴 打さく柴 下柴

[illegible]柴人 柴の[illegible] 楢柴 椎柴 柴舟 柴車

柴つき車 ○山路 処傳ひ 山里 材 [illegible]

[illegible]竜る庭 渡舟 市の湯 宇治の河舟 小[illegible]

●薪 薪 [illegible] 薪 [illegible] 東樵の袖

○山家に駒ひく 法に入袖 年入ぬる
採リ菓ヲ汲ミ水ヲ拾ヒ薪ヲ設ク食ヲ

秋
法華経をわかえし事ハ薪こり菜つみ水汲つかへてそえし 行基

●爪木 爪木こる 爪木拾ふ 爪木の道

新古
旅ねする芦のまろやのさむけれは爪木こりつむ舟いそくなり 源経信

凡
みよしのゝあを根の木の実ひろひつゝ山ふかくすむ山人 宗長

一千
一座 七座 二座 表座 きしけ座 永座 やまと座
梅の花座 宮内座申なり ○旅人 僧人に 徒士 舟去

市女早苗とる袖 ますらお 山家 文城野

古
流侍りける比木のもと家ハ在りまさきまて
あしひきの山の岩かねつたひつゝ紅葉のこきみくへき家

一主
一葛 きりかゝる山まけみの 右大臣の付合 えへし

一主
かけるのきさ名をくゆるの涙をとゆくるあまの 衣座 内大臣

一主二
一布 布さらし さらし布 布川とくく
ゆふすてゝゆくり さらす麻衣 鮮ノ細布

○川やの 里の垣根 瀧津浪 雨よるゝ流 井関浪

垣ねの卯花 宇治 玉川里 河内の里
拾遺草 武蔵之
調布をさらすねり白雲をさらぬきとめぬ玉川の里 定家
二十三
一洗ひ衣 ときあらひきぬ ○雨そゝぐ袖 立帰る旅人
まな侍 色も薫る庭 あらて香 まれしきゆ
やとめ住 いとかのよ 篭乱
笑ふごときは時八めをそる化花人の言葉をわきまへける
也八伊勢物語よりいへくく二人ありむかしは中きよき
男のいまうれしきとおりきてその後にこそのにそうら
こえ二三あら ゆつるそらりてくりのこ香

二十四
一麻衣 麻乃衣 麻のさ衣 木曽乃麻きぬ
○賎の女 稍をふ守袖 筏士 旅人 袖ぬきき 野女
あや かくさ刈木曽の麻きぬ袖ぬきまくみぬ ぬ露にのむらぬ 康遠
二十五
一衣かへ 付花乃袖 花衣 とりはしの衣 一花衣
花そめ衣 やまぶき花色衣 むらさき衣 こゝろめ風
恵衣 恋のちぎり衣 むらさき衣 六位之 衣 夜のき衣
きぬぎぬ衣 みすゞ衣 夜衣 やれぬる衣 旅行衣
山ぶ衣 墨染衣 苔衣 露ぬる衣 薄ぶ衣

浪かけ衣　浦分衣　袖つきたむ　ちかけ衣　古衣
ふる寺衣　捨衣　[illegible]衣　[illegible]衣　炭やき衣
[illegible]衣　ま遠乃衣　薄衣　むのつ刀　衣[illegible]
[illegible]衣　[illegible]衣　みのしろ衣　みげ衣　[illegible]衣
●花乃袖　むの袖　袖乃[illegible]　[illegible]袖　紫乃袖
[illegible]乃袖　きぬのも　[illegible]　[illegible]
[illegible]ぬ乃　[illegible]　[illegible]ぬ
○[illegible]　かざしのむ　[illegible]袖　行[illegible]

[illegible]特　[illegible]　[illegible]袖　[illegible]人　[illegible]
[illegible]人　小車　袖乃[illegible]　[illegible]物の[illegible]　[illegible]
●[illegible]　君を待　[illegible]　[illegible]　[illegible]
下[illegible]　[illegible]の袖[illegible]　[illegible]人の袖　車の[illegible]
二十六
一[illegible]火　[illegible]　[illegible]火　[illegible]火　[illegible]火
[illegible]火　[illegible]　[illegible]火　胸の火
胸の[illegible]火　○[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]垣守　浦舟　[illegible]　[illegible]　海士[illegible]　胸の[illegible]

一十七 篝火 篝のかけ 篝さし 篝焼 篝さして

○神 宗の湯 月遅き夜 鵜舟 夜の池の 玉葛

此垣守 宿直人 蛍 習ふ爪琴 網代守 釣舟

つゝる火に立そふ恋の姫にて百代の絶をぬれ袖とかな

是ハ源氏の四方の人玉葛に琴をたしふ事ハ此夜間

きとて篝火の絶松むとしめして蛍のかけり

よともせくまとりて終琴を此拠として添ふ事也

一十八 所来なきをまけちてよ篝火の便にたゞふ姫とあるハ 玉葛

一灯 冬の灯 夜の灯 恋の灯 灯を行く夜

かくる灯 法の灯 まくく灯 此にはしめく灯 灯けし

鉢の灯 お月の灯 壁にそむしる灯 焼の夜

天の中に又ことなし 玉の灯 玉をまえるすゝをまえ

とりつゝもいとり

○古寺 神社 法行 とのの宗 学の文 釣舟

人待祭や 月待猩 蛍 さ百合也 むりふ乳葉

ふる伊 鼎の子 友虫 此石の浦 天の橋ち

添酒 回灯 重用 宴

天の投そ志るして久月の中 五日の夜の灯

炭やきの煙火のきえゆりくゆるつる紬をみることよき隣
靡ク宮ある覆延之上ニ江縮窓餘
かきし火のなる入浦に有りやこき別る人家のあることを
二十九 一車 小車 力車 七車 かへり車 思車 やれ
車 うぶらぬ車之 物見車 立車 ところ車 ふ
つる車 淀車 きしる車 ぬる車 おく
ひ車 くるまき車 服君の牛車之 車をかくるよう 七十と云 鈴車
炭車 大きなる木のねを切くまたよき葉を 炭つみ車
つけてまたとりかるまとのせ

炭つみ車 炭の車 ○君が行 思ひ出乃
乃狩 ?の場 ?宿 ?のけ 物見の場
花の下 都路 淀路 子日の小松 炭人 炭竈
大原の道 ?の乃 乃調物 夕霧の宿
牛中 これを?つる人乃めの人?牛は車を引ている人?
月 ものはさ?てつるようろ?や君よむかるく?
みちもあはす人もなき人の?くハあやなくうさを?
是ハ伊勢物語ニ右近の馬場の日をり日?

独ぬるくるけきよりハ海士の住かこそきそなみかへ物こ
是ハ紫の上の川ゑの之源氏須ノ人左ゑの川時川ゆ
きくのあかりに須ノ人の浦山の事気と繪よりも
まつ之都人川帰 あるとて有口袁まて志あるを
ありこ付須ノ人をてあそくしけり繪とれ出し
あるとく梅嶺へまいらせ人ハ梅つかうこをうふ袋
の上これ程の繪とハ秋よみきゝあるとて源氏の服
みまふ源氏へこれの根之これ繪のうらみとしたりと
梅嶺とりしき六條のこやすまの川むすめ之伊をの
三二 女こそ立まふ後后ようをかりし之
一 日曾 甘硯 祝の机 硯の海 出る硯の机 まの海

○家乃月 親よりたふ 琴と川 讀ゑ とまろ物
乃け 小野乃奥
我くてうき世の中 よめくるとて 佐々こう人月乃都ニ
是をよまうむの君乃川ゑ之字舟の君宇治まく
月を捨ゐ道ニ本玉よりたくまく字治の平等院
のしろ川本のなりに捨ら道と横川の僧都 泊越
主猶あるし よりたゝ まて人付まつく小野へいさ
むまふ物の事の道を僧都 加持をし 此人ハをこと
三三 ゆまふこゝな小野そ日習ゑしまふまゐ小野ニ
一屏風 立屏風 屏風一ぬり 網代屏風 屏風何

○百姓の門　側　あらぬ方　ゆゑ空飛　人待　[illegible]や
こゑの門　琴の音　[illegible]　山[illegible]　[illegible]
山家　屏風や心[illegible]人行[illegible]児[illegible]
一盃　[illegible]　朝寐髪　[illegible]髪　[illegible]髪
振分髪　[illegible]髪　[illegible]髪　若人の[illegible]髪　[illegible]
[illegible]髪　[illegible]髪　[illegible]　[illegible]髪　[illegible]髪
[illegible]髪　[illegible]髪　[illegible]髪の筋　[illegible]髪　[illegible]髪
○物[illegible]　物の[illegible]　別[illegible]　[illegible]海土　[illegible]

柳の緑　池の[illegible]　[illegible]　鏡　[illegible]風[illegible]新柳髪
青柳の[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
春雨　[illegible]　後頼
一盃　初[illegible]　元服　○[illegible]　民の[illegible]　[illegible]
[illegible]の袖　元服の夜[illegible]
一盃　側[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　○[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　月[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

誤入仙家隆ヲ半日あり恐帰旧里絶ヲ七世孫

一鞠 しまつまの庭 鞠の友 鞠めさむ 夕鞠

声くしきる鞠の数 なりまぬ鞠の音

○こすのと 小雨 花の下 桑 柳陰 夕雲 敢酒

尺らめし伊 母ゑ 砌の真砂ノ 白河の宿 描

花のえふりきて数そふ鞠の音のなりまぬ屏れ雨そくく 壽

よそ見ておくぬるけきハ君れもの砂迄きえのメクけ

是を柏木の事 君の事之 君ニ注ス

一詩 作る詩 うそうて詩 唐の事

○月 花 盃の友 引琴 まる袖 菊ひろ

むまやの長 なりしろ岩の音

一哥 和り 連歌 鎖 呉人 えらぬ事

あの人 呉の友 あの友 あの席 鎖云の人

云の事の道 あ浦の人 難波津の道

○都人 糸竹の声 琴の音 詠る月 賀

花のうけ 敢酒 蛙の声 鳥 打鶴中

七夕の夜 四町乃夜 ニ長秋とあらきふ 百姓の
まもり住吉の神を祈る 人を侍用
安
守らせまふその家乱宿の名まを尺の傍につされみよ
是か秋このむり中まての流まく 集の人公まと落し
ゐきさて秋をそしらるの人
日
風よ夜の集ふハりしまるとい孫れ松ま出すそみぬ
是ハ秋葉の上の流まく秋をそしつとまむて中まへ
乃れあくまで秋のあらそむもく秋このむ秋中
宮上下八右衛門れやまおの流具女 冷泉院乃后く

四十二
一うしろ手声 きまよきし ○ 産作 琴
盃の衣 神米 あさ人 蒂つら うりまあ
主まうけ 船人 あく笛 本ころ うる田
山路ニ月笠ヲ道ル 着ハ 樵豆の牧笛声
流よ出きてあやきある物の音みまへ何さにはさ来これつ
是ハ葉平の前之伊を物語よめしおくれねハくし
ありさつ他家まりありきそうくるいさふとおり
年中
久母の天乃着の神遊ひ人今もさ面よろこふゐるに真喜

四十三 棹リ云ヘ 一曲 釣漁翁
一学 学むの道 夜の月 学むの心をこそ
ぬなるむ とろかるゝ なるひ かしこきまるひ
○窓の雲 灯 窓の雪 法の師 法に入袖
窓のうち さらむ 往 うゐ羽と
四十四 琴 琴の音 琴のこと 爪琴 引琴 うゐ琴
玉琴 琴の花へ かきるゝ寸琴 流るゝ寸琴
ゑとの緒 古琴 と琴 琴ぢ あづまゐと

四の緒 ことにちのこと 緒をとり琴
○宴和 酒の席 しろる屏風 雨夜の行の
二すの内 鶯の声 梵 泉の声 相思ふ夜
七夕 達生の宿 馬上人侍国 佗人の宿
明石の浦 宇治の舎り 須磨浦 相坂の関の宿
江の月とり 流れの月 さきうの月 村数 笑
七夕 六十六の月 琴のとりさぬや秋の笑 人力邦
琴の青 ふまの狂風 やしいつまのとりさ 初夏 初夏

みたまうらるゝさむやうそ引琴と風をことにむとぬく涙かな雁
見ハ王昭君の心をあるこの昭君ハ琴の上手之
浮陽江頭夜送客 白楽天も琴の上手之
蓮生の宿付りハ又陸の文の叫むすめまつむむうせのもとく
蓮生の宿に住のむて琴を引かつ之
明石と付ルハ源氏ハさすらへの時入る緒ともに引かむ之
宇治にそいうたくの文ハ叫むすめ二人ハ引かむ之
同閑学語花下滑幽明泉流ハ底灘り
源氏ハ月まて此詩人にするの爲をきてかむく

とをまるもの声ハ得あるべきハ指詩人の床も左のにし
四五
一笛 此笛 笛竹 笛の声 しらゝる笛の音 横笛
ゐらす笛の音 琴笛 ○忍ひあるき 前にしり
横上琴 おくあく人 此ゝしのか 落る梅代ハ
神示 くらふ声 草刈 その上人 まゝ風く無
他国よりかゝふ 夏人 ものくりう くらくすことなる
演芽生の宿 演笛ハ不知ヲ 羇客ノ長メヲ
笛の音の音両白くけゆかハむちるまうりとゆをはしてりよ人 詩

みし人の宿はあさちは直よりて隣の笛の聲にて陰源
海士の刈ほしほとむ虫の聲あるに稱をこそなるの世とならみ
見ハ女の子のくらくこもりてあるこありたこそあり
夜とに笛をいとおもしろく吹く声ハおもしろく
あはれなうこむけるを伊を初洛にアリ
牧童寒笛騎牛ニ吹
りしかこ
こさ吹くん星やせ雨しるの心をそふハみをし秋の月
宇治山すてゝ月の風の吹ふ
枝笛
笛行ゝ吹る風のことあらんとの世なきに稱ようこそし

見さ柏木の虫ゝ夕青ハ星なるを雨のこと
康ふ村風 吹笛處トアリ
平十六
一系行 愛法のまゝ系行の声 系行のさく人 ゆの音
あらす系行 ○其の賀 月のなし 三の席
みくし 酔酒 法のみちさ セタ ゝらめゝ舟
舞下人 かさしり舟 池の舟 九重の門 玉これ
主人下馬客在舟ニ峯涵ヲ飲飲無管絃
第五絃声ハ左掩掃ス 滝ゝ氷咽流不得

四七
一舞 舞人 舞姫 立舞ト袖 舞の足ふみ
乙女子乃舞 菊のいりあや 舞の袖ふる菊
○琴 笛の声 神楽 百歳の内 みんし
乃中 花の笑 紅葉乃かけ かさし乃むし
月の和 ゆく夜 夜乃かわり 神楽 其所 其所
春夜 胡蝶 吉野山
吉
天津風 宮の通路 ゆくらよし女の姿 遠くとめ人 遍昭
元さ其は の舞姫を天人にみなしてよめる也

物思ひにこちまふへくもあらぬ身に袖打ぬ世に心をつくるや
先々源氏の此事之和を乃賀に源氏舞ふ
と歳つかの宮も此賀して源氏の下心あまたは歳
臺 家舞といふ みすむ々やら今と歳臺の此事
うゝ人の袖ふる事は遠々見立ゐるにつきて衣 ふみき
先は歳つかより源氏へ乃此処 ゆくらゆく人の袖
ふる事とさもあまし やうきむ乃けいしやう
うゐの無九心か
立知る乙女の姿 雅其て月に居らぬ也乃通路
五節の舞とは清々原の天皇吉野におはしまし時天女

くさりて琴を引五度袖を通て蘇なる花より音の
舞さくしまるあるまゝ花に蘇人の面ゝこゝ七十人
の垣代あり かいしろともまゝあますりと
一平八 玉 みかるり玉 ゝ海ゝ玉 かゝ玉 あらむ 東夫玉
思ひ乃玉すゝ ○露よこゝ月 蓮の露 蛍 ゝ露
うてなの月 待えし月 君の代 汐のみちむ 千珠 浦珠
板 板 ゝ露ゝ 露宿ハぬき乱きてるむ 懺 基俊
同 なまり川辺にまとゝく蛍とハ砂にほとるむ 陸深
川 池あ よこゝ蛍乃ゝ人まとゝ人まとゝ人ぬむハ蛍ゝれ公實

白露に風の吹ゝ秋の里につゝぬきとめぬむうあけ 夕屋 朝廉
投 投 おもしろハ浮の蛍も蛍ゝ方よりあこかれ出りむりとも 和泉 武
新云 いかゝ乃ゝ川ゝ玉ハ口ゝ海の塩干塩満心なりけり 内家
四十九 一錦 錦ゝ きる 二面錦 かうらい の錦 紅葉の錦 萩の
かしき 錦の色 むあき錦 錦織 錦ゝ川 錦
錦 ○都人 帰家古里 紅の表 ゝ浮姫の袖
舞の袖 小車 行幸 花感 萩の庭位とま
投 むの後ゝ 錦ゝ 錦ゝ 寺 庭とみ 花浦

五十三
一都　付九重　古き都　古さと都　都の門　都路
都の西　よそふる都　うつる都
●九重の内　九重の庭　九重のみち　九重の孫
宮の門　古宮　宮所　大宮人　大門　内裏
内住　百敷　雲の上人　雲の洞　仙洞之
雲井の洞　みかきの洞
○みやこには　柳　桜　花さく袖　春来
小車　月見るみやこ　待つ宵　遅き初雪　行幸

雲井の友　流るる君　わするる石　同じ色　此階のなか
琴の音　旅人　志賀　難波　布安　三の原
奈良　うすり　吉野
みやこの大路の都ハ道よりも大宮人のうへにありて　之人
深山人　程もさえぬ路を都のまより出のおよぶ　公実
五十四
一君　大君　君のめぐみ　君が代　君がめぐみ　君にちは
かくる君が代　とはるるき　むかしの御代　ひさしき
新院　かけのの君　院之　まうけ君　東宮　まうけの宮

○治ら世　礼もぬ世　えらふ人　賑ふ民の戸

司召　縣召　花の賀　月の賀　以調

又　憲の君に礼なしてて付之

勅　芸行のよりの和ときくりに君ら子らを見るらむも遠　恵浦

五十五　一御　幸　君ら以幸　以幸の車　やきに以幸　絶　以幸

○袖の白く　花衣　子日の野人　狩場　花盛

紅葉　連ら方　神祭　神のみ曲きかして　殿作　大原

小倉　大井川　芹川　吏野　嵯峨

大井川みゆきさしりは法ならん入江の松に夜は春はり

小倉山　幸の望ちて心わらは今てはむの以幸まるなん　貞慶

ねらの山ふゆき結は芹川の女世の古今法は有りり行平

伊　菊さむ人なとあそりり衣々ふ井をこ別も以るり

此方どりり衣の袂よりさつをなり

五十六　一位　つき位　まらむ位　ゆらそふ位　みしらき位

○うしこき人　身ある袖　あやしきふ人　曲る付さすらん

年の内　寛の月とみる心　くらねぶ礼なしてもよし

五十七
一 [illegible]人 [illegible]の袖 [illegible]人 下つ人 下ようつる
○ [illegible] むの袖 人めと思ふ契 月花とこぬ心
又袖の気にとりなしてさ ぬさこそ袖 清まくり
五十八
一 宿直 [illegible]守 宿直の声 宿直人 宿直りし
[illegible]して 宿直やつま 宿直[illegible] 宿直[illegible] 宿直
○ 灯 [illegible]の門 夜夜 思ふ国の戸 [illegible]袖
[illegible]夜 関屋 宇治の里
五十九
一 [illegible]調 みつき物 君り[illegible]調 絶ぬ[illegible]つき 民の

[illegible]調 [illegible]つき [illegible]調
○ 治承世 [illegible]路 せきの長橋 車 馬 氷[illegible]
[illegible]国の舟 難波の[illegible] 舟
[illegible]国の[illegible]調 [illegible]舟 [illegible]舟 [illegible]
[illegible]百浜より傳へまくの法の声 [illegible]
[illegible]つき[illegible]二万の里 [illegible]
[illegible]路や[illegible]の[illegible]調 [illegible]
六十
一 [illegible]

○菊咲宿　花乃庭　賭弓　紅葉乃比
酒乃序　糸竹の声　庭の清め　連哥
門乃朝清め　山と乃く比
六十一
一酒　酌酒　かくす盃　しら盃　酒乃序　盃の足
手さけくむ　春酌　酸の中　酸の乳　室のつぎ
○加賀　糸竹乃声　祝言　作ル詩　讀む　神楽
神采　麹の坊　いで出　関送リ　関迎　舞人
菊の宿　月花の縁　紅葉うた声　市の坐

年越　豪色　世の色會　たのしめ　新まくり
住吉乃市　七のりしたき人
一曲　紅絹小紋数ッ　血引たつ　推君　翻ッ酒汗ッ
年中
姿よ世も絶えて備下　六月飛ぬ春酒も君ゐまん　大久望
年中にかみち
菊の水同じく御奥とうちそへてまかせる盃　大白
いれこの七のしこき今もおほかるめハ酒よその目けり
万
あそびのやうく宝よの二つきのあそれる酒よあたまきうろめや　宮持
●酔心　二八　荒礒乃舟　まくろくづし　枕よるぶ

一賀 [illegible]の賀 [illegible]の賀 月の賀 [illegible]の賀
今日の賀 年の賀 ○酒 [illegible]人琴 笛
[illegible] [illegible]の門 [illegible]
[illegible]
一祝言 [illegible] ○[illegible]
初子日 [illegible] 酌酒 [illegible]
命長き人 子世[illegible]代
延寶七巳未年 孟夏吉旦
二條通
野田藤八 板行

九ノ日一ツ 50